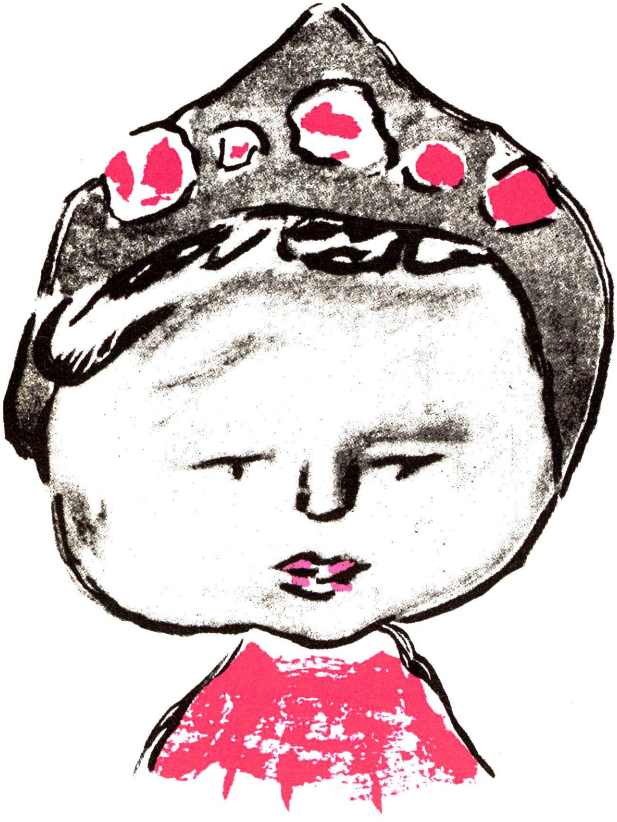
幼兒の教育

第五十卷　第十號

日本幼稚園協會



フレーベル百年記念第二特集号

10

★キンダーブックの愛讀者へお薦めする★

トツパンの愛兒えほん

新発賣品

かわいい愛兒のために
安くて丈夫で美しい
愛兒えほんを

のりもの
かわいいどうぶつ
——以下續刊

☆九月中旬刊☆
村上松次郎画
内田武夫画

各冊B5特判12頁
定價50円

◉御註文はフレーベル館
又は最寄保育館へ

株式會社 トツパン 東京都中央区日本橋茅場町1の20

第五十卷　幼兒の教育　第十號

～～～～目　次～～～～

フレーベル百年祭記念第二特集

フレーベル遺跡巡礼の思い出……倉橋惣三……(2)
新しいフレーベルの発見……海後宗臣……(9)
フレーベルと現代教育の理念……石山脩平……(17)
放送劇「幼稚園の父フレーベル」……寺田太郎……(27)
放送劇「幼稚園の父フレーベル」聴観記……倉橋惣三……(33)
園長学第一歩(二)……玉越三朗……(36)
私の記録から(二)……堀合文子……(43)
(講話)幼児の健康保育(十二)……平井信義……(49)
会から……(54)

(表紙……脇田和)

フレーベル遺跡巡禮の思い出

――開会の辞にそえて――

日本幼稚園協会会長
日本保育学会会長
全国保育連合会顧問
倉橋惣三

フレーベル先生が一八五二年六月二一日沒せられてから、本年が丁度百年に当ります。世界の諸国に於きまして、それ〴〵行事が行われて居ることゝ思います。吾国に於きましても、各地に種々の催しが行われたのでありますが、日本幼稚園協会、日本保育学会、東京都にあります公私立幼稚園保育所が共催致しまして、いわば全世界で行われる多彩なるフレーベル祭の一つとして、この講演会を催しました。私の名の上にいろ〳〵の肩書をならべましたのも主催の各方面をあきらかにする為であります。皆さんが多数御参集下さいましたことを、主催者の一人として厚く御礼申上げます。

今日の講演は、御報らせ申上げました如く、東京大学海後教授、東京教育大学石山教授両君の、フレーベル先生に関するお話を伺うことが主眼であります。両教授が吾国に於ける教育学の代表者として教育全般に亘り、当然その中に幼児の教育も含まれて居りますけれども、必らずしも幼児教育に限らず、教育全般に亘つての権威者であることは、更めて御紹介の必要もないことであります。今日は、教育学のこの両権威者から、フレーベル先生を、その教育者としての大いさと深さに於いて、十分に偲ばせて頂き度いというのが、我々の目的であります。ところで、先生の教育思想に関する理解を深めると共に、フレーベルその人を、その郷里に訪ねて、親しみを以つてこの人を偲びますことも亦、百年祭記念会と致しまして、皆様の御諒承を得ることかと思います。

フレーベル先生の郷里は、御承知の如く南ドイツ、ツーリンギヤ森林地方にあります。ツーリンギヤは、洵に広い深い森林地帯でありまして、シュワルワルド即ち黒い森とさえも呼ばれて居りますような濃い繁りのところであります。勿論フレーベル先生の足跡は、その地帯の中に限られて居つたのではありません。或いはイエナの大学に学び、或いはフランクフルトマインに参りまして、そこで図らずも――と申しますのは、フレーベル先生が、初めは林業、即ち山林のことゝか建築とか、云わば物的職業に就いて居つた人でありますが、どうも先生の理想性を満たすことが出来ませんで、人生的煩悶と申しましようか、随つて職業的放浪者となりまして、フランクフルトマインに参りましたのもその為でありました。そこで図らずも人間を人間にする職業というものに触れまして先生の理想性はそこに満足を得ました。先生の言葉を以つてすれば

「初めて魚水を得たり。鳥空を得たり」

と、自分の性格が処を得たという意味でありましよう、大に喜ばれたのでありました。そして直ちにペスタロツチに学ぶ為に、スイスのイベルドンに赴きました。その後奥さんの郷里でありますベルリンにも居りましたが、時偶普々佛戦争に遭いまして、若きフレーベルは、身を以て国を護ることなしに国家の青年を教育することが出来ようか、という考えをもつて義勇軍に投じて戦線に向いました。これらは総てフレーベル先生が郷里の外に出たことでありますが、それから心も身も教育に安定し、再びツーリンギヤ地帯の中にありますカイルハウに帰えり、そこに安定せる住居を造りました。そこで親友達に囲まれて、その仕事は簡単乍ら熟して居りましたそこで愛妻ウイルヘルミナを迎えまして、良き家庭を作りました。先生の教育に関する理念、或いは熱情は、この森の中の実に淋しい村で熟しました。先生の主著であります「人間教育」という著述も、その他の論文も此処で多く出来たのであります。

そのカイルハウから峠を越したところにブランケンブルヒがありまして、これ又へんぴな田舎町であります。

私はベルリンに居りまして、冬の学期の暇を利用してフレーベル巡礼に出かけましたのでありますが、先ずこのブランケンブルヒに逗留して、そこからあちらこちらを歩き廻りました。ブランケンブルヒには、フレーベル先生が初めて作られました世界最初の幼稚園の建物も、実にさゝやかなる家でありますが、今日も猶遺つて居りますし、その他フレーベル博物館――フレーベル先生に関する色々な遺品が集めてありますし博物館がありまして、研究者には、種々の資料が得られるところであります。私はカイルハウで「人間教育」の初版の残つているのを見出し、ブランケンブルヒ博物館で「母と

子遊戯歌」の初版にあい、踊る胸にそれを抱いて譲り受けて帰りました。私にとつて最も貴重な宝物になりました。

そこに先ず足を留めまして、それからフレーベル先生の生れた家のある、オーベルワイスバツハを訪ねました。これはブランケンブルヒの奥の高原にあり、私は雇い馬車で参りましたが、約半日の道程、いわば中央線の通わない前の木曽街道と申しましようか、芦蕉が通りました木曽の山道は、こんな処かと思われるような森、木下やみの渓流に添つて坂道をのぼるのです。先生の生れた家は、先生のお父さんが牧師でありました如く、今も牧師さんが住まつて居りますが、実にさゝやかな家であります。たゞ、その家を囲んで居ります垣根これがフレーベルの自伝をお読みになりました方は御承知の如く、子供フレーベルの頃の生い立に関係深い垣根であります。生れて僅か九ケ月で母を喪い、牧師の仕事に殆んど家のことを顧る暇の無いお父さんの下に、フレーベルの幼時は極めて淋しいものでありました。家庭的に孤独な子供はその垣根の中に楽しみを求めて、そこでフレーベルの冥想的な、然し又自然を深きところに於いて感ずると云つたような性格が幼な心に種を下ろしたことゝ思います。その垣根の木は幾春秋変つていますが、垣根を越して眺められる向うの山々は、フレーベル先生の頃と変らないと思います。オーベルワイスバツハは、今でも少しも近代化して居ない山村ですが、この山に囲まれた閑寂の高原こそ、幼年或いは少年フレーベルの心に、静かな感化を与えたものと思いました。

そのオーベルワイスバツハや、ブランケンブルヒや、カイルハウこそ、――フレーベルが幼稚園というものをブランケンブルヒに作りましたのは五十五才の時でありますが、――フレーベルの故郷であり、今日のいわゆる幼児教育の思想が熟した心の故郷であります。先生はカイルハウに住まつて居つて、ブランケンブルヒに幼稚園を作りまして、そこへは峠越しに通つて居つたのでありますが、初めてキンダガルテン――訳して幼稚園という言葉を思いつかれたのは、この峠道の途中です。私は遺跡巡礼者の気持から、その峠の土に額づくような思いでそこらあたりが一つ〳〵なつかしく思われたのであります。此処でキンダーガルテンという言葉を思いついて、ブランケンブルヒを望んで大声を上げられた地点は何処だろうかと、山の中をたづねました。いさゝか馬鹿げた巡礼振りでありまして、こゝでフレーベルがキンダーガルテンと叫んだという棒杭など勿論立つていよう筈もありませんが、兎に角、それらの地域が、フレーベル先生のキンダーガルテンの故郷であります。

それから段々自分の事業を国外に拡めまして、遂いにリーベンシユタイン――温泉場と云いますと何となく派手な感じ

が致しますが、ほんの田舎の温泉でありまして、そのリーベンシュタインに定住して、そのそばに在るマリエンタールに幼稚園を開き、吾国の言葉でいえば、保母養成所を開き、これが先生の晩年の安定の場処になりました。

その安定も、実は極く短いことでありまして、もうその時は七十歳に近くなつて居りましたから、極く短い定住で殁せられた訳でありますが、そのリーベンシュタインの高原の森の中で、あの有名な「馬鹿親爺」という名前を、フレーベル先生が得られたのであります。七十歳の垂々とする老翁が、子供達と一諸に遊ぶことに沒頭、沒入して居る姿は、大抵の心ある人にも「馬鹿親爺」としか見えなかつたことでしよう。

其処の土地は、後世の人達も大事な場処と考えて居ると見えまして、恩物を像りました記念碑が建てられていますが、四方に森を控えて遠い山々を見はるかす、実に景色の良い場処であります。私はその記念塔の前に立つて思いにふけり、又そのあたりの幾つかの写真を撮つて持つて帰えりました。その持つて帰えりました、甚が鮮明度の薄い、焦点の合わない、幾つかの写真と、私の心の中にはハツキリ映じて居りました記憶影像とを合わせて、今日の芸術会々員寺内万治郎画伯に御相談して描いて貰いましたのがこの絵（演壇に飾られた額を示す）であります。こちらの正面の肖像の方はブランケンブルヒの博物館で手に入れたのでありますが、フレーベルという人は、実は余り愛嬌のある顔をして居りません。後に幼稚園令が、思想的誤解を以つて禁止された原因は、馬鹿々々しい色々な誤解がありましたけれども、このフレーベル先生の愛嬌の無い長髪の顔も一つの原因だと、或る人が書いている位であります。（笑声）――あんなに子供を可愛いがつた人、あんなに子供になつかれた人、という感じは、どうもこの肖像と合いません。そこで考えますのに、フレーベル先生が子供を愛しましたり、子供に愛せられたのは愛嬌などゝいうものでありません。当時の先生を親しく尊敬したマレンホルツ・ビューロー夫人は「子供を観るフレーベルの目は子供の顔や姿でなく、子供の中にある、自ら発達して行く神性を観て居るのである。」と書いています。その眼で観られた子供は、又フレーベル先生を、たゞ子供心だから愛して呉れるというだけでなく、慈しんで呉れるというだけでなく、況やおもちやにするという人でなく、子供が自分でも気がつかない育ち行く神性を見てくれる眼として、即ち誰れよりも子供の知己の眼として親しんだことに相違ありません。フレーベル先生がブランケンブルヒでも、リーベンシュタインでも町の道を歩いていると子供が飛びついて来たということでありますが、此の真面目な肖像の顔では、どうもその光景に結びつかない。そこで何とか子供と結びついている時の顔をと考えまして寺内画伯に御相談して、土地の人が「馬鹿親爺」

と見た顔、即ち厳粛なる深刻な哲学者と違つた姿を出して貰つたのであります。ペスタロッチの顔もフレーベルの顔に輪をかけたような怖ろしい顔で奥さんのアンナ夫人も、そう書いている程でありますが(笑声)――『スタンツに於けるペスタロッチ』の名画では、子供の中に溶け込んで居ります。その『スタンツにおけるペスタロッチ』に、或いは並ぶものとしてこの『子供と遊んでいるフレーベル』を私は大変尊重して居るのであります。

この辺のお話は、丁度明日(六月二十四日)の午前九時半から、NHKの「光をかゝげた人々」という放送で『幼稚園の父フレーベル』をドラマタイズされたものが放送されることになつています。ラヂオは態々此会場までお出で願わなくともいゝですから、お宅でくつろいで御聴き下さるよう願います。――前にこの画を御覧頂いて居りますと、情景自ら浮び来たると思うので御座居ます。私はそのシナリオに関係致しましたが、私がそこで芝居をするのではありませんから、その辺お間違えないようにお願い致して置きます。(笑声)――

そういうリーベンシュタインの生活は、フレーベルの一番生粋なところかと思います。本当のフレーベルの姿は、リーベンシュタインの「馬鹿親爺」にあると思います。その時の子供達は、大抵跣足の子であり、半ば裸の田舎の汚い子供であります。今日幼稚園と申しますと、いわゆる坊ちやん、嬢ちやんの集る幼稚花園を連想する人もありますが、私は先日或る会でも申しましたことですが、百年祭でフレーベルを仮に日本に迎えて、今の日本の幼稚園教育を観て貰つたとすれば意外な感を持つのじやないか。勿論美しい着物を着ている可愛い顔をしているのも、子供の本質に於いて、下に差別ない如く、上にも差別無い訳でありますけれども、フレーベルの作つた幼稚園は、今日で云う寧ろ托児所の外観であります。農繁托児所の形式であつたのであります。その中に――私が自分の主観を申上げて相済みませんが、その農村の貧しき農夫の子供達を少しも侮どらなかつたことは勿論、貧しきが故に、裸、跣足でいるが故に哀われむという心を起すよりもたゞ子供の中にある自ら伸びて行く力、それを見詰めて一緒に遊び暮して居たのであります。フレーベルは、実にリーベンシュタインに於いて、その事業に非ずして、その精神の生粋を発揮したものです。但しフレーベルは其前にベルリンの托児所を視察して失望しています。境遇に憐れむだけで、子供の自発的発達を尊重することを忘れていた、当時の托児所に失望しています。

やがて、あの老フレーベルにとりまして、洵に気の毒でありました幼稚園禁止令が出ました。プロシヤの反動政府は、

フレーベルの幼稚園に対し、或いは事実上は同じ名前の間違つた人を狙つたのだとも云われていますが、兎に角禁止令を出しました。その禁止された儘の中に、フレーベルは死んだのでありますが、然しフレーベルを理解する者は、そんなことに関係なく、先生の説を聴いていました。

フレーベル先生は、大変自然を愛する人で、オーベルワイスバツハの田舎に育ち、森の中で林業に従事した人でありますから、文化人と云うより寧ろ泥臭い田舎人でありました。フレーベルの死んだ時の姿が斯う書いてあります。

「最後のベットから、窓を開けさせては、外の自然を観た」と。

外の自然は、六月二十日あたりのことでありますから、緑蔭こまやかな自然であります。子供達は先生の好きな花をあちらこちらから摘んで来て枕辺に置きました。自分のやつた幼稚園が自分の国で禁止されましたらば、外国へ行つてやろう、新らしい自由の国アメリカに行つてやろう、とまで悲壮な決意を致して居つたフレーベルでありますが、その死の床は実に安らかでありました。その辺の子供の親達、学校の先生方、殊に多くの子供達に送られましてシュワイナの町に葬られたのであります。

私が其処ら辺りを巡礼しましたのは、先程申上げましたような関係で、冬でありましたが、その辺を歩くには適当な時期ではありませんでした。四月二十一日生れて、六月二十一日に亡くなりましたフレーベルの故郷を歩きますには、春先から丁度今の新緑の時期であるべきだつたと思います。私は寒い冬の旅でありましたので、其処らの新緑のツーリンギヤをそのまゝ思い出すことが出来ないのは遺憾でありました。然し乍ら私が思いますのに、新緑は自然界の永遠の蘇りでありましよう。あゝ四月二十一日、六月二十一日。私共はフレーベル先生の追想に於きましても、子供を愛する心の永遠なる蘇りを感ずるのであります。

シュワイナの墓地は洵にさゝやかなる墓地でありまして、矢張り恩物を像りました墓地石がありますが、そこの入口迄田舎の馬車屋さんに乗せて貰いまして、その入口からは馬車屋さんの十二、三の娘さんに案内されてお墓にお詣りしました。ドイツの子供で、実に頬の肥えた、よくリンゴのような頬と云いますが、少々ドス黒いリンゴのようでありました——笑声——私はそこでお墓に向つて色々なことを語りました後で、その娘に、

「貴女は此処に眠つている人を知つている？」

と云いますと

「ヤア」

と云いますので

「どういう人？」

と聴いてみました。私が人にものを聴き、答を得て嬉しかつたことの中でも、これが最大の思い出でありますが、その子供は、フレーベル先生は大教育学者だとは云いませんでした。そう云つても宜いのであります。云わないのは、彼女が何も知らないからでありましよう。又、フレーベル先生は、キンダーガルテンの創設者であると云えば、もつと適格ですが、そうも云いません。実に無邪気な顔でいゝました。

「キンダ・フロインド！」（子供の友達）

フレーベルの為に云つて呉れたのか、私の為に云つて呉れたのか、実に嬉しくも云つて呉れたのであります。私が、先生が子供と遊び呆けた姿をリーベンスタインの丘の上で思い浮かべていたその午後、その村の子供から「子供の友達（キンダーフロインド）」の言葉を聴いたのであります。私のフレーベル遺跡巡礼の締め括りとして、何という嬉しいことでありましたろう。

フレーベルの有名な言葉、

「いざ吾等を、子供と共に生きしめよ。」

ということは色々と深い意味に解せられますが、その先生の言葉を、子供の方から云えば、

「先生じやない、キンダーフロインドだ。」

と、云いましたその少女の言葉そのまゝになります。私が嬉しかつたばかりではなく、その墓石も実に嬉ばれたものと思います。

今、そのシュワイナの森は、鮮かな新緑に包まれていると思います。私は、その新緑の中に「キンダーフロインド」と呼ばれて眠つて居られますフレーベルの墓に、も一度行つてみたい気持で堪え難いのであります。

これで私のお話を終りますが、私の今日のお話は、開会の辞に添えましての、ほんの思い出をお聴き願つただけであります。今日の会の主なる部分では決してありません。主な部分は日本の教育界の権威者によりまして、世界の教育者フレーベルを考えあつて頂くことであります。

私は、その有益なお話を前に、フレーベル先生に対する親しみを皆さんと少しばかり話しあつただけであります。御怠屈であつたと思います。これから、海後さんと石山さんとのお話をよくお伺い致ましよう。

—拍手—

新しいフレーベルの發見

東京大学教育学部教授　海後宗臣

一

私は今から約二十五年前明治初年の教育文献の研究を行つた際に、幾つかの幼稚園についての文献を手にした。その中の一つに関信三の編集した『幼稚園法二十遊嬉』という冊子があつた。これは明治十年三月刊のものであるから、約七十五年前の刊行物であつて、わが国における初期幼稚園文献の貴重な一つである。

この冊子はその名称が示している如く幼児保育のための遊嬉二十種を絵解きをもつて示したものである。その遊びは恩物の扱方である。フレーベルの創案になる恩物の絵をかゝげて簡単に説明し、子供がどのようにしてこれを用いるかについて書いてある。当時としては珍らしい銅版印刷であつて、極めて興味深い保育文献といわねばならない。このような恩物の解説としては勿論日本最初の文献であるから、当時としては多くの幼児教育者に参考として用いられたものと思う。

私はこの古い文献に特別な興味をもつたのであるが、それは珍らしいというだけではなかつた。実はフレーベル恩物は十九世紀教育思想の講義で学生時代に既に知つてはいたが、このように近代生活の核心をえぐつて、然かもこれを子供の遊びとして豊かに展開している直観とその技術に全く心を奪われた。その恩物の性格を一つ一つ検討するにつれて、何んと精細な考えと深い洞察に基いたものであるかを考えさせられた。それを探求するにつれてフレーベルが第十九世紀前半

期において展開したロマンテイクの如何にすばらしいものであるかにすつかり心を打たれた。フレーベルの偉大さを発見したのは私にとつてはこの時であつた。

更に私をフレーベル恩物の解釈へと向わせたものは、私が郷里水戸において今から四十余年前にうけた幼稚園教育である。関信三の恩物解説を見ながら、私は幼い時代の幼稚園における指導、特に恩物の幾つかを思い出して、その古い記憶をよみがえらしては、改めて恩物のもつている意味を考えさせられた。私はこうした恩物への探求をなし得た出発点が幼稚園で保育をうけた経験にあることを知り、改めてその当時の幼稚園の教師に謝意を示さざるを得ない。

この恩物に考を集中したその頃、私はフレーベルの恩物は単なる玩具ではなくして、子供が成人して勤労者となる際に、仕事について生産にあたる際の技術の基礎教育をしようとしているものではないかと考えていたからである。第十九世紀の初期から展開された教育思想や実践の多くはこうした生産技術に連関をもつているからである。フレーベルの恩物もこうした時代において生産への基礎教育をなしつゝあるものと推測していたので、恩物の一つ一つが担つている社会生産的意味に探求を集中せざるを得なかつた。

二

フレーベルの恩物は教育史上において極めて著名なものの一つであつて、多くの教育者特に幼稚園の保育関係者には普ねく知られているものである。私はその一つ一つよりも全体を貫いた一つの綜合形体に驚かされた。恩物は三つの主要な類別によつてその性格を明らかにすることができる。第一は物体であつて、第一より第六までの恩物がこれにあたる。次に第七より第九までは、物体を分析してこれを面・線・点に分けたものである。更に第十は構成であつて、これらの面・線・点で一つの形をつくりあげるものである。これらによつて近代的な技術の体系が整然と立てられている。

物体についての基礎陶冶をなす第一類は毬を第一恩物としている。この毬は球状をなし統一をもつた形を現わし、総べての事物の本源となるものである。この毬が六つ用いられているが、それが六色に分けられていて、赤、黄、青とこれを合せた色でつくられ、それぞれに個性をもつているものとして、子供にとれるようにしてある。色彩によつて区別される物体であるが、何れも一つのまとまつた球体をなすことによつて統一されていることが意味をもつている。子供はこれを糸にて枠からさげて様々に動しては、他の毬との関係を学習できるようにしてある。成る程このような球体の遊具は子供が心から手にして楽しいものではあるが、それをあらゆる形体についての学習の第一歩としたところにフレーベルの恩物

観をうかがうことができる。

第二恩物は球と円鋳と正立方体の三つである。これは物体をつくりあげる基本となる様式であつて、あらゆる事物がこれらの一つ或はその組み合わせによつてできているので、これを用いて物体の認識とこれを生活に用いる基礎訓練を与えようとしている。第三恩物は正立方体八つである。これをならべて学習するのであつて、数の訓練をなすのを目的としている。第四恩物は長方体八つであつて、これは広さを学習させるためのものである。第五恩物は立方体二十七であつて、その中三つは対角線で二分され、他の三つは対角線で四分されている。これを用いて学習するが、その目標は均齊についての感覚を得させるためである。第六恩物は長方体二十七であつて、そのうち三つは縦に二分され、六つは横に二分されている。これは比例を学習するためのものである。これらは極めて体系的であり、数学的に工夫されていて、その科学的で精細な分析によつていることは注目される。

第七恩物は面についての学習をするものであつて、正方形と等辺三角形の板片でつくられ、これをならべて技術の訓練がなされる。第八恩物は線についての学習をなすものであつて、直線と円形とを用いるが、直線は細長い木片を用い、円形は金属の環を用いるのである。第九恩物は点についての学習をさせるもので、大豆、小石、厚紙を用いて、点の性質を感覚させようとしている。第十恩物では面・線・点を合わせて一つの物体をつくるのであつて、軟かい豆・ろう製の小球・とがつた箸、むぎわらを用いて構成を行わせる。これらの恩物は遊びの基礎になるもので、これらの原則によつて、様々な作業品をつくりあげているのである。

作業によつて種々な物体をつくりあげるためには、これを学習の種別によつて次の如くに行つている。物体をつくるためには粘土、原紙細工、木工などがあり、面のためには紙を折ること、紙を切ること、寄木細工等がある。線のためには組み合せ、編み合せ、織り紙、糸あそび、ししゆう、図画などがある。点についての学習としては南京玉などを紐に通す方法などが行われた。これらは作業によつて何かを製作する遊びであつて、恩物を実地において試みたものである。

以上は恩物の大要であるが、フレーベルがこのような技術学習の基本となる様式をつくりあげ、それで幼児の保育をなしたことは、教育技術を展開してこれを彼の教育観に即応させたものとして、フレーベル百年祭の今日改めて思い出さねばならない。

三

我々はフレーベルの恩物とその全体系とを明らかにすると、彼は何のためにこのような恩物をつくるようになつたの

か、その理由を探求しなければならなくなる。何を目的とし、何を考えて未だなかつたこのような遊具をつくつたのであろうか。これについては様々な考があつて、それぞれにフレーベルの意図しているところをさぐらうとしている。

第一の考えはこれはフレーベルが子供の遊具をつくり、喜んでこれを手にすることができるようにしたものであると見るものである。これは恩物を玩具の一つであるというように極めて簡単に、それ以上何等の意味をもたないものと解釈している。フレーベルが第一恩物の毬を思いついたのはブルグドルフの近くの芝生の上で子供が毬で遊んでいるのを見て、感ずるところがあり、これを子供に与えて物体の基本となつている球を楽しんで遊ぶ間に感覚させようとしたことなどから考えると、恩物はこのような玩具となつてしまうであろう。

第二の恩物観は極めて高尚なもので、これは内的生命が物によつて表現されたものであると見る解釈である。即ち人間の内奥にある精神が物をもつて自からを限定したものであるとし、その意味で神性をもつたものと解釈するのである。神によつて創造がなされると同様に、森羅万象の現実化されたものとして考えている。これはフレーベルが『人間教育』の中で恩物を説いている如くであつて、シェリング哲学による哲学的な解釈をなしたものである。即ちフレーベルの思想によつて、理解する普通の考え方であつて、多くの恩物解釈に見られるものである。物体は神の姿を現わすと理解する同一哲学によるので、神が創造する如くに子供が恩物によつて物をつくりあげるとして、恩物による創造を重く見るわけである。これは重大な一つの理解で恩物はこのようなものとして成立したと立論して誤りない。しかしこうした神的なものとして崇高な性格を恩物に与えるのみでよいであろうか。これは恩物論の上で問題となる。それでは神の世界からこれを下界に引きおろして解釈するならばどうなるであろうか。こゝに恩物についての自然科学的な考え方がある。それはフレーベルが自然科学の研究を重ねた人であるというところから、恩物の形体は自然物の科学的な分析によつて作りあげられたとするものである。特にフレーベルが結晶学についての研究をした人である点に注目して、恩物を結晶学かち組み立てたとしてその性格を決定する考えが成立する。実際フレーベルは一八二一年にベルリンでワイス教授の講演によつて結晶学に興味をもち、後に助手となつて研究した。それによつて結晶学によつて人類の発達を見ることが彼の著作の中に説かれている。

これについては彼が自伝の中で「人間はただに自然の形と姿との多様性を認識するだけでなく、自然の統一、自然の内的活動を理解する。……彼等は彼の遊戯において自然の創造過程を模倣する。最初の自然形成物、即ち自然の固形体は結

晶体である。彼等は喜んで自然の最初の活動を模倣する。結晶体はつくりあげられた物であるが、子供はそれを構成する。」と述べている如く、恩物の構成を結晶体がつくられることと結びつけて同じものと見ているのである。

この類推は当時の自然と人間についての思想としては珍らしくはないが、我々はこうした自然と人間活動の同一解釈で恩物を見ていることはできない。更にそれよりも重要な解釈が残されているものではないかと考える。

四

私はこゝに恩物は何のために考案されたかについて第四の解釈を立てようとする。それは恩物による幼児の保育は、庶民の労働とその仕事への発展を考えての基礎陶冶であると見るのである。これは恩物を神的なものとして高い解釈をしていたわが国のフレーベル理解に対して極めて卑近な解釈と見られるかも知れない。しかし今日はフレーベルを庶民的なものとして新しく発見しなければならないと思うので、敢えてこの理解をこゝにとりあげるのである。即ち生産活動をめざしての基礎的な学習としてとりあげようとしている。

フレーベルが恩物その他の物を用いてなす作業教育を重視して、こゝに教育方法の重点を置いたことはペスタロッチの作業教育思想とならべて教育史上注目されてきたことなのである。従つて彼は恩物を用いて様々な仕事をさせることは、工場で働く人々や百姓などの仕事への技術訓練であると明言している。従つてこの生産への恩物解釈は私がこゝで観念的につくりあげているものではなく、フレーベル自身の言葉がこれを確言しているのである。即ち「この教授法は眼を通して物の形及び均齊に関する知識を与え、又手を訓練して此知識を外部に表現することのできる技能を与えることである。現にわが国民殊に職人や農夫などが形と均齊とを知覚し又これを表現する力の発達していない為に、非常な不利益を感じていることは、多くの人々の常に嘆じていることではないか」と『人間教育』の中に述べている。

このように技術の教育が必要であるのに、一般にはこの点を問題としてとりあげて、組織ある学習として体系づけるものがないことを嘆いて次の如くに言つている。「今日の家庭の有様を見ると外部的作業や生産的活動を各方面に自然的合理的に発達させることに関しては極めて皮相的で且つ無秩序である」と述べているのではないか。こうした生産に対する積極性の欠けた教育の実情は百年を経た今日の日本の家庭にもよく適合している。子供の遊びにおける活動が将来の生産へ結びつくように技術の学習を体系づけようとする意欲などは、今日果して何処にあるであろうか。フレーベルはそれを一世紀以前に提唱しているのではないか。

フレーベルは自から恩物を考案しては工夫を重ね、次第にこれを豊富なものにつくりあげて行つた足跡をふりかえり、どのようにして恩物を完成したかを次の如くに語つている。「私達はこのように紙の上へ形をつくることから、紙そのもので形をつくることへ、次いで厚紙で形をつくり、そして最後には木で形をつくることへ進んだ。私の後年の経験は私に形式及び造形に必要な尙ほ多くの材料を知らせてくれた」と自伝の中に述べている。これは恩物が単なる神の象徴としてばかり見ていたのではなく、如何に庶民の作業に結びついたものであるかを示している。それを一つ一つフレーベルの教育直観で子供の遊びとして編成したかが、明かに認められる。

恩物が如何に生産様式と結び合つているかについては、その幾つかをとつてこれを判定することができるであろう。紙を形に切りぬく仕事や寄木細工などはそのまゝで直ちに工場での生産活動に結びついている。木材板工業から金属板を用いる工業においても、これを切つたり、重ねたり、組み合わせたりする技術を必要としている。それらはそのまゝで幼児のうちから恩物で育成できるようになつているのではないか。このフレーベルの優れた智慧を先ず認めねばならない。線を取扱つた多くの恩物は繊維についての工業における技能と如何に深く結びついているか考えてみると実に偉大なる構想である。織紙の如きものが今日の紡織の原理そのまゝであつて、それを色紙で行つている。子供は遊戯として熱心にやつているその間に紡織に必要な基礎技術が習得されてしまうようになつている。

フレーベルは石板の上に網形の目をつくつて幼児がこゝに縦横の線を引いて図画学習をする考えが示されている。これは幾何的な図形学習を求めたものである。然るに最近はこのように形にとらわれた学習は望ましくないとして、図画は自由絵画の形え近くなつてしまつている。こうした実情にはあるが、フレーベルはこの線上の図形学習を高等の諸学校では独立の教科として、或は他の学科の一翼として認めさせることについての見通しをもつていた。現代の学校ではこうした学習は独立した図画学習の中に含まれていることと定められてはいるが、著しい発達をしているとは言えない。しかしフレーベルがこの時代に製図作業の一部に発展する学習を立てていたことは注目さるべきであろう。この点でも彼の学習作業の企画が如何に近代的な考えによつているかが明かにされる。かくの如くに子供の遊びが社会における生産によつて後から支えられて少しづつ進歩するためには先づこうした恩物を理解しうる教育観を確立しておかねばならない。それをフレーベルが切り開いて近代的な生産の基礎たらしめこれを教育における生産性の実現としたことには敬服せざるを得ない

五

私はフレーベルの恩物をとりあげて、それを解釈することによつて、新しいフレーベルのあり方を発見したと考える。それは実はフレーベルが百数十年前に確立していたことで、何等新しいことを私が附加したわけではないのである。日本の教育学者がフレーベルを解釈することにおいて余りにもこれを高い哲学的なものとし、恩物も神的な理解の一面を、強調してきていた。これはフレーベルがもつていた貴い哲学ではあるが、しかしこれと共に現実的な地上的な他の一面をもつていたことを確認すべきである。これは第十九世紀前半におけるヨーロッパの産業変革による生活の著しい改造、それがフレーベルの思想の裡にあつて、子供をこうした産業人たらしめる教育へと進歩させていた。この一面を日本のフレーベル観がとり失つていたのである。そして恩物の地上的な理解を正しく受けとることができなかつたのであつた。それは日本社会が近代化からとり残されていて、そこまで考えが結びつかず、唯恩物や保育法の外形をとつて充分な意味を担わせることができなかつた為であろう。このためにフレーベルを同一哲学の基礎から解釈して、シエリング的な神学的な理解にのみ走つてしまつたのである。それはフレーベル解釈を徒らに高尚にして単に一つの思想にすぎないとさせたのではないであろうか。この意味でフレーベル百年祭にあたり、日本のフレーベル解釈が新しい一つの発見をつけ加えてほしいと思う。

しかし我々は恩物を通してフレーベルの事業が近代産業技術を基礎としていたことを確認して、日本が忘れていたフレーベルの一面を解釈し直すことを要望するばかりではない。更に第二の新しいフレーベルを発見しなければならない。それはフレベールの時代と今日とは既に百年の時間の距りをもつてきている。生産の技術はこの間に著しい発展をした。特に動力としての電気が自由に使用できるようになつた二十世紀の生産はフレベールの時代とは驚くべき変化を来している。更に新して原子エネルギーも用いられようとしている。若しもこれが動力として正しく駆使されたとしたならば、新しい産業革命が来るであらうと推測されている。こうした時代に我々は唯単に百年前の恩物とその意味とを発見したのでは不充分である。

今日の幼児保育には新しい恩物が求められているのではないか。それは恐らくフレーベル考案のものばかりではあり得ないと思う。我々は新しい今日の恩物をフレーベル百年祭にあたつて発見しなければならない。それこそ第二の意味において今日求められているフレーベルの新しい発見である。フレーベルはドイツが立ち後れながら当面していた生産技術進

展の胎動の中から、子供の学習の組織的な第一歩を恩物によつて開始した。この恩物を体系づけそれを一人でも多くの子供にもたせようとして、自から工場をつくつて恩物を製造頒布した。こうして保育の優れた方法のために精進したフレベールを今日新しく見直さねばならない。

われわれはフレベールの輝かしい業績を彼が残した恩物によつて回顧すると共に、今後の新しい生産に結びついた基礎陶冶を正しく今日の子供が喜ぶ仕方において保育の中に工夫しなければならない。それはフレーベルが求めた道であるが、それを荒廃したこの戦後の日本において、生産を通してのの国土復興として跡づけなければならない。それはフレーベルを遙かなる敗戦日本において祭る最も重要な意義であると考える。

その道に精進するために、フレーベルの言葉をもつてこの論文を結びたい。「子供が様々な遊戯をしたり、物を造つたりするのは、子供が咲かせる最初の花で、この時期は将来における生産活動の準備をなすべき時である。子供はどのような身分、地位のものであつても、一日に少くとも一時間か二時間は一定の仕事即ち作業に従事すべきである。今の子供はむやみにわけのわからない運動ばかりしていて一向に仕事をかえりみないようである。ところが実を言えば仕事をする方がどれだけ深く解らせ、児童の発達を助けるかも知れない。今日の子供や両親は作業を軽んじて、それは子供の将来にとつて余り大切なものではないと考えている。この考えは教育機関の力で追い払つてしまわなければならない。実に現代の学校や家庭での教育は頭ばかりをつくろうとして、子供を作業に対して冷淡にし不活発にさせている。このため大いに発達すべき人間の能力が少しも発達しないでいる。子供にとつてこの損失は莫大なものがある。」

これはそのまゝで今日のわが国の教育に対する批判であり新しい方法の提唱となつている。その際にフレーベルはこの仕事を信仰と一つにした。「宗教心を早くから養成する必要があるように、作業上の訓練も早くから与えられることが至つて大切である。作業の本義に従つて早くから仕事をさせるのは、宗教心を固くし、これを高める所似である」と教えている。子供が物を用いてこれで創造しようとすることは宗教心をつくる崇高なことと一つになつている。このところにこそフレーベルの作業の提唱や恩物をもたせた真義がある。それは霊のない実用のみの作業観へ重大な教訓をたれている。

（特に執筆を謝す。編集者）

フレーベルと現代教育の理念

東京教育大学教育学部長　石山脩平

一

フレーベルその人のことを、くわしく語るためには、私の力が足りない。またそれは今日の催しの目ざすところでもないであろう。

歴史上の偉人が、真に偉人であるのは、その人の思想や業績が、現代の問題について、意味をもつており、さらに現代を未来にみちびく方向を示しているからである。私たちはここにフレーベルの歿後百年を記念するにあたり、彼の生涯をふりかえり、彼の著作をよみかえしつつ、もし彼が今日、この国に、この世界に、生きていたとしたら、何を為し何を叫ぶであろうかと考えてみる。彼が為すであろうことは実に多く、彼が叫ぶであろうことは実に高く深いものがあるにちがいない。（しかもそれらは、彼の独自の面目につらぬかれ、彼でなくては為しえず叫びえざるものとして、私たちに彼への追慕と畏敬の念をつのらせるのである。）しかも彼はすでに亡い。私たちが彼を偲んで自ら為すべきことは、彼の業績と思想を、私たちの能力と環境に応じて引きつぎ、彼をして、私たちを通じて、現代の日本と世界の課題に取り組ませることである。私たちのこうした努力が誠実であるならば、フレーベルは歿後百年にして、なお今日の日本と世界に生きていることになる。彼を記念するということは、私たちが彼を想い起すことであり、彼が私たちを通じて現代に生きることにほかならない。

祖国がおかれている今日のきびしい運命と、世界が直面している明日の不安な雲行きとに対して、私たちは、フレー

ベルの名を呼びつゝ、少くとも三つの大きな課題に取り組みたいと思う。

第一は、現実の精密な認識を求めながら、まさにそれによつて、未来の崇高な夢を描くことである。

第二は、自らの内に民族的自覚をよびさまし、熱烈な愛国心を燃え立たせながら、まさにそれをもつて人類同胞の信念に徹し、世界平和の悲願に生きることである。

第三は、こうした夢と願いを、幼な児の純情とにおいて典型的に見出し、教育という聖なるいとなみのうちに、私たちの夢と願いの実現を期することである。

この三つの課題を、私はフレーベルの業績と思想にあやかりつゝ、今日ここで、端的に率直に述べてみたいと思う。

二

フレーベルは、その修めた学問の分野からいえば、自然科学者であつた。自然と親しみ、個々の自然物、自然現象を、精密に観察測定し分析して、その根底にある理法を把握するために、飽くことなき努力を傾けた人である。ただここに注目すべきことは、外なる自然に向かう彼の心が、実は内なる自己に沈潜する心と連なつていたこと。しかもそうした事情は、彼が幼くしてぶつかつた不幸な運命に促されたものであつたということである。

フレーベルは、一七八二年四月二十一日、ドイツのテューリンゲンの森の中の一寒村オーベルワイスバツハに、牧師の子として生れた。素質からいえば、彼は溌剌とした精神、深みのある情緒、活潑は想像力をもつていた。このような子どもには、愛情に充ちた確実な教育が必要であつたのに、それが彼の家庭には欠けていたのである。母は彼が生れて九ケ月目に亡くなつた。父は六七ケ所の教区に分れた凡そ五千人の信者を引きうけて多忙な活動に追われていたので、幼きフレーベルの世話は、召使と兄や姉に任せられた。彼が四才のとき、二度目の母を迎えることによつて、しばらく幸福な生活を送つたが、やがてこの母は自分に男の児が生れると、フレーベルに対しては、まるで冷たくよそよそしい人になつてしまつた。母はフレーベルをお前（Du）と呼ぶかわりに、彼（Er）と呼んだ。「彼」—すべての人を、突つ放し孤立させる呼び名—。何よりも温かな愛情に飢えていたフレーベルは、常に、何事につけても、母の冷酷な拒絶と排斥にあわねばならなかつた。父は本来厳格で短気な気性であつた上に、今は完全に若い後妻の意のままになつていた。愛とまでいかなくとも、せめて理解してほしかつた父も、当時はフレーベルを理解してくれなかつたのである。（この父は臨終の床において漸くこの子を理解した。）

フレーベルはこうした不幸な少年期を、自ら次のように記している。「私の気持はいよいよますます引つこんでしまつた。でも自分に罪がないと思えば、自分で自分を守るほかはなかつた。外からの打撃が、はげしく耐えがたいものであればあるほど、私は自分の内的生活に満足を求めるようになつ

た。私は亡き母からの守りを祈り求めて、心の母によりすがつた。心の奥底に自分自身の生活を持つとき、それがどんなに小さなものであつても、それは私の天国をつくり出すためには十分に大きなものであつた。つまり私は外からの圧迫におされて、私の心を内へ内へと成長させ強めたのである。」

外的にはまことに惨めな家庭環境によつて、フレーベルはしかし鋭敏な感覚と直観力とを養われた。彼はこの力をもつて、一方では自分自身を深く省察すると共に、他方では外なる自然の中に融け入り、わけても植物、とくに草花に深い直観を向けて、そこに人生と同じきものを認識した。牧師なる父に身の上相談に来る多くの人々が、大ていは夫婦関係、男女問題に関する悩みやいざこざを訴えるのを聞いて、フレーベルは、人間には何故に男女の性別があるのかと思い惑つたのであるが、彼はふと花の中に雄蕊と雌蕊のあることを見て、自然もまた人間と同じであることに気づいた。外なる自然は、かくして、内に考えるこの少年を引きつけ、慰め、高め深めた。彼自らの告白によれば、「私は教会に加えて自然の宮居(テムプル)を、キリスト教的宗教的生活に加えて自然の生活を、悩み憎みあう人間生活に加えて静かな安らかな植物の生活を得た。」のであつた。

彼はすでに十才か十一才の頃、「内なる生命と外なる自然とを矛盾なく統一するところの、ある神秘的なるものを憧れ求めた。」そして外なる自然と深く結びついて生活することを理想とした。「田舎に、農場に、牧場に、森林に住む人」——これが若きフレーベルの面目であつた。

こうした形而上学的直観力と宗教的体験に支えられながらも、しかしフレーベルはあくまで精確に厳密に自然を探求した。

十五才のフレーベルは、郷里から徒歩二日行程の地、ザール河畔にあるヒルシェンベルクの林務官ヴィッツに弟子入りをして、林業を学ぶことになつたが、ヴィッツが仕事に追われて弟子を教育してくれないので、フレーベルは、自学自修するほかはなかつた。これは結果において彼に好都合であつた。彼はヴィッツの書斎で数学と語学と植物学とを研究すると共に、絶えず山野を跋渉して、森林地帯の植物を採集した。また隣の町の医者で植物研究を道楽にしていた人と交わり、その人から植物学書をもらつて、森林地帯以外の植物をも広く知ることができた。

次いでイェナ大学に学生として入学してからは、応用数学、算術、代数、幾何、鉱物、植物、物理、化学、財政学、林業、建築、測量などを学んだが、とくに鉱物の研究には大きな興味を感じた。

(フランクフルトの教職生活において、彼が担当した教科は算術、図画、地理、ドイツ語であり、中でも地理と図画とは最も好評を博した。)

ゲッティンゲン大学の在学時代に、物理、化学、鉱物、博物、天文等を研究したが、とくに自然化学に強い興味と熱意を示した。とりわけ鉱物学、結晶学においては、鉱物の世

界、結晶の世界に整然たる法則が支配していることを知り、つねに事物の統一調和を求めている彼の世界観に大きな刺戟を与えた。

ベルリン大学の鉱物館に助手として勤務していた間のフレーベルは一日の大部分を、音もせぬ一室に鉱物と一緒に閉ぢこもつた。そのとき彼にとつて、鉱物こそは、静かな、そして無限に創造的な自然の活動の無言の証人であつた。

以上に私は、フレーベルの生涯における自然科学的研究の足跡の若干をたどつたのであるが、そこには自然科学者としての彼よりも、むしろ形而上学者的な彼を見出した。

彼は草花や樹木に人間と同じ生命の法則を見ただけでなく、無生物たる鉱物にすらこれを見た。そしてこうした外的自然と内的な人間生命とは共に神性のあらわれであると彼は考えた。一つの神性が、小にしては土塊の一粒から大にしては大空の天体に至るまで同じく宿つている。無機物から植物、動物を経て人間に至るまで、発達の段階は異なるにしても、同一の神性、同一の生命、同一の法則が貫いており、それゆえにこそ自然と人間が、否さらに森羅万象が相互に理解し共鳴し合うこと——これが実にフレーベルの世界観であり宗教でもあつた。

ところでこうした世界観は、フレーベル自身の先天的素質に根ざすものであつたが、同時に、彼が接触した環境、彼の生い立つた時代の影響をそこに見のがすことができない。彼がイェナ大学に自然科学を学んでいた頃、その大学には、あの美的世界観の哲学者シラーが歴史の教授をしており、「同一哲学」のシェリングが哲学の教授をしていた。大学を去つてしばらく両親の家にいたときには、ゲーテ、ヴィーラントその他の文豪の作品に親しみ、とくに浪曼派詩人ノヴァリスの著作には最も深く共鳴した。その著作を手離すことは自分自身を手離すように思つたと自ら告白している。

これらの哲学者や詩人——むしろ哲学的詩人、詩的哲学者——に共通する特色は、自然において精神を観じ、自然と精神との同一性を観るところの浪曼主義、象徴主義であつた。フレーベルは実にかかる浪曼主義、象徴主義の時代に生れ、そうした環境に育ち、それらの人々と同じ世界観を分けもつようになつたのである。

私はそれ以上にフレーベル自身について、またその歴史的背景について、語ることを差しひかえよう。私たちは、むしろ、こうしたフレーベル的世界観の現代的意義を考えなくてはならない。

現代は複雑怪奇な時代であり、悩みと不安に充ちた時代であり、しかもそれらを解決し超克して、安らかな明るい時代をつくろうと苦しみ求めている時代である。

こうした現代において、とくに目立つ二つの方向がある。第一は自然化学の驚くべき進歩であり、第二は世界平和への熱烈な祈願である。

原子物理学の研究と原子力を利用する技術の発明は、現代の自然科学の進歩を代表すると見てよいであろう。一方また

この学問と技術とが、まず戦争のための武器として恐るべき力を示していること。それだけに平和への願いが万人の願いとして、熱烈に願われていること——これもまた現代の大きな特色である。原子物理学の進歩に比べて国際平和機構の確立がおくれていることが、現代の不安の根本原因であると思われる。アメリカとソ連とが原子兵器の製造に関しては同じ目標に向つて競争する程に熱心であるのに、平和のための方策に関しては、事ごとに対立離反して、そのために国際連合は十分な機能を発揮しえない。そこに現代の不安があり悲劇があるのだ。

ところで原子物理学を研究する学者自身は平和主義者であり、原子兵器の利用を恐れているようである。そこで私に言わせるならば、原子核の構造を研究し、そこに宿つている絶大なる力を認識することは、宇宙の神祕を探りあてる鍵であり、フレーベル流にいうならば、神性が、かくも微妙な形と力とにおいて、一つ一つの原子に宿つていることを知ることになるであろうと思う。科学は神を否定し宗教を破壊するものではなく、かえつて科学の究極に宗教を肯定し、自然法則のすばらしさに神の意志、造物主の配慮を感得させる。近代科学の父ガリレオは「われに顕微鏡を与えよ、然らば無神論を克服せん」といつたが、それこそまさに科学から宗教への道を示すものといわねばならない。

ところで原子において見出されるすばらしい法則は、やがて宇宙のすべての物質すべての現象が一つの偉大なる意志のもとに統一せられ、その意志を父として、その子なるがゆえに相互にいわば血の通つた同胞であるという世界観を当然生み出すであろう。すべてを結びすべてを融けあわせる世界観しかも同じ水準の人間の中の誰かが誰かを支配したり、物質の中の何物かが何物かを支配したりするのではなくて、水準の高い最高の神というようなものが万人を万物を支配するという世界観こそ、すべての個々の存在を平等に価値づけるところの民主的世界観である。世界平和への祈りも、明日の世界の夢もこうして科学的宗教的世界観によつて支えられなくてはならない。フレーベルを現代に生かす道の第一は実にこうした科学的にして宗教的な、平和的にして民主的な世界観にあると私は信ずるのである。

三

科学による厳密な現実認識から崇高な夢を描くという第一道に対して民族的自覚、愛国心というようなものから、人類同胞の信念に徹し、世界平和の悲願に生きるという第二の道——これがまたフレーベルの生涯と思想が私たちに教える重要な一面である。

ナポレオンの馬蹄に蹂躙されたドイツ——そこには民族の自覚、祖国の独立への願いが勃然として起つた。フィヒテはあの深い思索と厳密な論理と熱烈な愛国心をもつて、前後十四回にわたる連続講義——『ドイツ国民に告ぐ』という大講演を行つて、理性の哲学に基づく世界史的観点から、ドイツ

民族の使命を論じ、新しい教育による祖国の再建を提唱した。シュライエルマッヘルは、教会に義勇軍を集めて、フィヒテに劣らぬ愛国的講義を行つた。私たちのフレーベルはさらに進んで自ら武器をとり、義勇軍の一兵卒として、戦場を前進したのである。

しかもフレーベルのこうした勇敢な実践は、教育に志す青年としての独自の決意によつて行われた。彼に云わせるならば、自分がこれから教育しようとしている児童は、祖国をもちながら武器を執ることができない。児童自身の力では祖国を守ることができない。こうした児童のために祖国を守ることは青年の義務である。苟も武器を執りうる青年が児童と祖国とを、血と肉をもつて守りもしないで、しかも児童の教師となりうるなどとは、自分は全然考えることができない。いま卑怯にも怖れ退くような青年が、後に赤面することなく、また児童の嘲笑と軽蔑を受けることもなくして、彼等を自らかの偉大なる事柄や、献身犠牲を要求する事柄に感激させうるなどとは、私には考えることができない。——これが彼の決意を促した事情であつた。

しかもこうした決意と実践は、決して単にドイツのみの自由のためではなく、また戦争への狂熱によるものでもなかつた。むしろ、いま戦争に参加することは、戦争という人類共通の苦悩を克服するためである。人類共通の危険を駆逐するために自己の義務を果しもしないのは、威厳のないことであり、男らしくないことである。——こう感じたと、フレーベルは自ら告白している。

私たちはここでも、ドイツ民族とその祖国とを愛するフレーベルの心が、その実は民族愛を通じ祖国愛を通じて、全人類への愛に連なつていることを見る。宇宙の万物万象に同じ神性を宿すことによる共通法則を認める彼が、人類共通の苦悩と危険の克服のために立ちあがつたのは、あまりにも当然と云わねばならない。

民族的自覚と愛国心とに起ちあがつたドイツは、やがて普佛戦争に勝ち、カイゼル治下の強大国ドイツを実現した。それはフレーベルの思想を一部分実現したけれども、その全部を実現せず、とくに最も重要な点を実現しなかつた。ドイツもフランスも、その他すべての国々も、同一の神性を宿すことによつて平等であり、同胞であると考えるフレーベル的世界観のかわりに、ドイツ民族のみが神の意志を奉じて存在するものの如く考え、ドイツ至上主義（Deutschland ueber alles）を公言することによつて、カイゼル治下のドイツは第一次世界大戦を惹き起し、ついに敗北してしまつた。

その後のドイツは、一時的には、かつてシュライエルマッヘル、フィヒテ、ゲーテ、ノヴァリス、そしてフレーベルなどによつて築かれた気高く大らかなドイツ——浪曼主義、象徴主義、新人文主義のドイツ——を再現するかのごとくに見えた。そこではフレーベルも、オイケンやフォルケルトやシュプランガーなどによつて、研究せられ呼びかえされた。

しかしながら間もなくナチスの嵐が、この咲きかかつた花

を散らして、傲慢な独善的な民族国家主義のドイツをつくつてしまつた。神の支配に従う諸民族に同胞として手を結ばせようとしたフレーベルの理念のかわりに、ひとりドイツ民族のみが神に代つて他の諸民族を支配しようとする民族国家至上主義が臆面もなく振りまわされた。ヒットラーをめぐるナチスの指導者たちによつて、フレーベルは何らの尊敬をも払われなかつたのである。

それゆえに私たちは、今度こそフレーベルを力強く呼びかえさなくてはならない。私たちが求める新しい世界秩序においては、いかなる国家も平等の独立国家、主権国家であるがしかしまたいかなる国家も絶対の独立、絶対主権を持つてはならない。すべての国家は、共通の理念、共通の法則によつて支配せられながら、しかもそうした共通の理念、法則を各国独自の姿において実現するものでなければならない。個々特殊のものが共通普遍のものを、独自の姿において実現する——そこに個性が普遍性に支えられ、普遍性が個性に具体化するという新人文主義的、フレーベル的世界が成立するのである。国際連合のごときは、こうした意味での新しい世界を目ざしているのである。

今日、私たちは科学者による平和運動がさかんに展開されているのを見る。そこでは科学の成果が戦争に悪用されてはならないと警告せられ、また科学の研究が戦争によつて妨げられてはならないと訴えられている。しかし平和というものが、このように、科学の成果の使いかたや、科学の研究の条件に関して、要求せられるだけでは足りないと思う。むしろ科学の証明する真理そのもの——すなわち、あくまでも精細に厳密に、個々の事物、個々の現象を探求して、それぞれの実相を明らかにすると共に、そうした個々の事象が、普遍的法則に、神の意志に、支配せられることによつて、整然たる世界秩序が成り立つていることを明らかにし、そこに個と普遍とを共に尊重する科学的宗教的世界観を確立し、これによつて、世界平和の基礎を、まさに科学的宗教的に確立しなくてはならない。これこそフレーベルが見た世界のありかたである。彼はこうした眼をもつて、歿後百年の今日の世界を厳しく見守つているのである。

四

フレーベルは、家庭の事情により、早くから就職の必要に迫られていた。さきに述べたような自然科学方面の研究も、直接には就職を動機として行われたのである。二十三才の頃友人の紹介によつて、フランクフルトへ行つたのも、建築家になりたいという強い希望に促されたからである。

それにも拘らず、彼の心の底には、自ら明かに意識しないほどそれほど深く、人間教育への関心が潜んでいた。建築家としての就職口を待ちながらも、彼は何か割り切れない気持で、自分自らに問うのであつた。「一たいお前は、建築術によつて、どうして人間としての甲斐ある活動ができるのか、またどうして人間の教育と向上とに尽すことができるの

か。」――

こんな悩みと不安を抱いているフレーベルを、友人は偶然にも、ペスタロッチー学徒なるグルーナーに紹介した。グルーナーは当時フランクフルトに創設せられたモデル・スクールの校長であつたのである。グルーナーは卒直に忠告した。「あなたは、建築業はおよしなさい。それはあなたには適しません。教師におなりなさい。私の学校に一人欠員があります。御同意でしたらその地位をあなたに上げます。」フレーベルはこのようにして、フランクフルトのモデル・スクールの教師となり、そうした縁故から、彼は三日後には、イヴェルドンにペスタロッチーを訪ねた。この最初の訪問は僅かの日数であつたが、深い感銘を受け、あらためて長期の研究を予定して、一先ずフランクフルトに帰り、教職に従事した。彼は九才から十一才までの男児三四十名の学級を担当して算術、図画、地理、ドイツ語を教えたのであるが、その最初の喜びを、兄クリストフに報告して次のように述べている。

「私は、何かしら、自分でも知らなかつたもの、しかも長く憧れ長く見失つていたものを発見したような、またとうとう私の生命の根底を見出したような気がしました。私は水中の魚、空飛ぶ鳥のように幸福です。」

こうして天職を発見したフレーベルは、その後、家庭教師として教育生活を続け、その教え子三人をつれて再びイヴェルドンにペスタロッチーを訪ね、その学校の生徒と生活を共にしつつ、ペスタロッチーの教育法を研究した。

フレーベルはペスタロッチーの教育法に対し、多くの点で共鳴し、それを讃美したが、唯そこに幾らかの不満をも感じたらしい。それはとくにペスタロッチーの教育法に外的な全面性と完全性とが欠けており、内的な統一性と必然性とが欠けていると感じたことである。察するところ、ペスタロッチーの教育には可なり分析的、論理的、機械的な色彩があつたようである。もちろんそこには道徳的、宗教的なものもあつた。しかしあえて言えば芸術的なものが欠けていたのではあるまいか、知的、道徳的宗教的であつても、芸術的でないならば、どこか潤いがなく、ゆとりがない。外的な全面性と完全性、内的な統一性と必然性というようなものは、本来芸術的なものにおいて、最もよく具わるものだからである。そしてこうした方面の教育は、とりわけ幼児の教育において最も自然にあらわれてくる。

教育に天職を見出したフレーベルが、さらに教育活動の焦点を幼児教育に集中してきたことは、思えば偶然ではなかつた。

幼児の生活、あらゆる真実を、直観的に把握し直観的に表現する幼児、有限な事物によつて無限なものを表現し、物的なものによつて精神的なものを表現し、地上的なものにおいて天上的なものを表現する幼児、つづめて云うならば、何よりも浪曼主義的、象徴主義的な特色に彩られている幼児の生活―これこそは、フレーベル的世界観を、素朴に自然に、しかも典型的に証明するものである。フレーベルが幼児の教育

に関心を焦点づけ、とりわけ幼児の遊びとその遊び道具としての「恩物」を、深い根拠から工夫考案したことは、当然と云わねばならない。

いわゆる幼稚園の創設に関する有名な話は、あまりにもよく知られているので、ここには省略しよう。唯ここで、私たちが陥りやすい一つの誤解を、念のために警戒しておきたい。

フレーベルが「幼稚園」（Kindergarten）として夢みたのは、町の一隅や学校の一隅に、小さな一劃を設けて、幾十人かの幼児が保育されるところ、いわゆる幼稚園ではなかつたようである。少くともそうした幼稚園を彼は考えついたのではなかつたらしい。

むしろ、さしあたり、ドイツのすべての家庭が、神の恵みにより、したがつて（また自然と人生との共通法則によつて）母愛と父の心づかいとによつて、幼児を正しく、のびのびと育てあげること――いわば全ドイツの家庭を子どものための花園とすること――これがフレーベルの願いであつた。ブランケンブルグに創設された幼稚園は、この意味において、全ドイツの家庭のモデルを示し、望ましい家庭教育のセンターたらしめるためであつた。その名を「一般ドイツ幼稚園」（Der Allgemeine deutsche Kindergarten）と名づけたのも、こうした趣旨であると想像せられる。

だからこの幼稚園の背景には、全ドイツの母親、全ドイツの女性に呼びかけ、彼女たちに手を結ばせようとする「婦人連盟」も考えられていたのである。

しかも神の恵みは全世界にあまねく、自然と人生との共通法則は、全世界の自然と人生との共通法則であるかぎり、そこに当然にドイツを超えて全世界にひろがる幼稚園が予想せられねばならない。

「人類よ、神の園なる家庭において、園の百合のごとく、新鮮に明朗に、生い立て！」フレーベルが彼がその主著『人間教育論』（Menschenerziehung）の表紙裏に記したこの言葉は、実に全世界を人間教育の花園たらしめようとする祈りがこめられていたのである。

これこそ彼が現代に生きる第一、第二の道が第三の教育の道に具体化したものにほかならない。しかも幼き自分が最も強く求めて得られなかつた家庭の愛と温かみとを、彼は全世界の人々のために求めているのである。

五

以上に私が語つたところは、あまりにもロマンチックであつて、リアルではない。と批評せられるであろう。ロマンティケル、フレーベルを語るのに、ロマンティックであるのは当然ではないか。と云つてしまえばそれまでである。しかし私は現代教育の理念を語るためにこそ、わざとロマンティックに考え語つたのである。理念は現実ではない。現実を超えて高く末来に掲げられる目標、遠く未来を指し示す方向、これがまさに理念の本質である。しかもそれは現実から全くか

けはなれた空想ではない。現実の中にはたらき、現実を導いて一歩一歩、前進させるところの生きた力である。

科学の進歩によつて個々の事象をますます精密に認識しながら、まさにそれによつて宇宙に遍満する普遍的法則を把え、神の意志に結ばれること、個々の民族、個々の国民が平等に独立と自主とを保ちながら、同じ神のふところに抱かれて同胞愛に結ばれること――そのような世界を、人間教育の花園として打ちたてること。こうした意味での真に民主的平和的な世界の実現は、決して空想ではなくて理念である。現実の世界がそれに遠ければ遠いだけ、現実が一歩一歩それによつて導かれ前進すべき目標、方向としての理念である。

この理念を、もし空想と嘲る人々があるならば、私たちはその人々から袂を別とう。その人々というのは、多分、あまりにも現実的な大人たちであろう。遠く高き理念を、まじめに追求するには、あまりにも生い先きの短い大人たち、その人たちのことは、もう断念して、生い先きの長いこどもたちに手をさしのべよう。何よりもロマンティケルたることを特色とするこどもたちこそ、理念を求めるにふさわしいものだからである。

だからフレーベルは、幼児教育に関心を焦点づけたとき、一八三七年八月一日の日記に、次のごとく記した。「そうだ吾々はこどもたちに生きようではないか」(Kommt lasst uns unsern Kindern leben!)。その同じ言葉が、今もなお彼の墓標に刻まれている。「そうだ、吾々はこどもたちに生きようではないか。」

これをもつて私の拙き講演を終る。

(特に執筆を謝す。編集者)

新發賣

お茶の水女子大学付属幼稚園 主事 及川ふみ先生御考案

たのしいおしごと (九月下旬)

B5四色刷美本・内容十六枚
定價 四五圓・送料 六円

大変御好評を頂いた「えとぬりえ」を御考案された及川先生が、またまた日本の子供達のためにこれはぬりえのもつ教育的価値と「おさいく帳」のもつ指導性とを渾然と一体化して一つの「おしごと」にまとめ上げた劃期的なものです。必ずや手にとられてこれはすばらしいとおほめ頂けることゝ存じます。

幼児に創造力を與える保育新手技材料

ウツド・カラー (色へぎ合せ)

自己創造にたえまない幼児の手技材料として劃期的革新的なものであるとして多権威者から絶大の御賞讃をいたゞいております。

1 型は丸一種ですが大小色彩の組合せで玩具・動物・
2 植物・模様何でも出来る。
3 薄い経木に着色したものですから原型色彩が変化しない。
4 糊をつけないで多種多様に並べている中に好きなものができる。
5 自然の中にたのしみながら創意工夫を養う。おさいく帳「えとぬりえ」等にも併合出来る。

至急各代理店にお問合せ下さい現物一本及び参考品を持参いたします。

東京都千代田区神田神保町二ノ四
株式會社 フレーベル館

—放送劇—

『光を掲げた人々』

幼稚園の父

フレーベル

寺田太郎

（昭和二十六年六月二十四日（日）NHK放送「光を掲げた人々」の台本掲載。その快諾について日本中央放送局著作権課及び作者寺田太郎氏感謝する。）

配役

フリードリッヒ・フレーベル……青山杉作
ベルタ・フオンマーレン・ホルツ・ビューロウ夫人…東山千栄子
ユリアーネ（夫人の侍女）……東恵美子
馭者……栗山昌良
フリツツの母親……川上夏代
フリツツ……渡辺少年

☆アナウンス　毎週日曜日のこの時間には、誠実な心と、深い愛情をもつてその一生を貫き、人間の幸福にかずかずの貢献をした人々の姿をお伝え致します。

これらの人々は、世俗の成功を求めず、報いられることを期待せず、ひたすら自分の信ずる道を生きました。

ある人は有名になり、ある人は不遇のうちに一生を終りましたが、これらの人々の気高い生涯は、私たちの心に絶えることのない勇気と希望の灯を点ずるものであります。

（アナウンス）フリードリッヒ・フレーベルは、一七八二年に、ドイツ・ツーリンギヤ地方のオーベルワイスバツハという、森にかこまれた小さな町に、教会の牧師の子として生まれましたが、生後九ケ月にして母を喪いました。

青年時代には、学校に通つたり、森林局の書記を勤めたり、あるいは建築技師を志したりして、生涯の方向を模索していましたが、偶然のような機会から、フランクフルトで小学校の教師になりました。この時、彼は二十四才でした。

しかし、この偶然がフレーベルの運命を決定しました。のちに、彼はこう書き録しています。

フレーベル（四十五才位の声）私は、今までまだ見たことのない、しかし常に憧れており、常に欠点を感じていた何物かを発見したような気がした。あたかも私の生命が、ついにその天賦の要素を発見したようなものであつた。私は、魚が水を得た如く、鳥が空に

翔け上り得た如く幸福に感じた。

（アナウンス）彼はイヴエルドンのペスタロッチの許を二度訪れ、深い感銘をうけました。

その後、自力で学校を経営したりもしましたが、窮極とは、幼児の教育を目的とする幼稚園の設立運動に献身しました。その時、彼はもう五十九才になつていました。

六十八才の時、チューリンギヤ山林地帯のなかの温泉町、リーベンスタインに居住して、こゝに幼稚園と保母養成所とを経営しました。

キンダー・ガルテン……幼稚園という名称はフレーベルが名づけたもので、フレーベルこそ、幼稚園の創設者なのであります。フレーベルは、一八五二年六月二十一日にこの世を去りました。

今年はその死後百年に当りますので、世界中の国々が「フレーベル百年祭」を行つて、彼の業績を追慕いたしました。

時おり、おちこちで郭公の声……

遠くから馬車が近づいて来る……

馬車の音

馬車の音

時々、鞭の音……

馭者 奥さま、今度は御ゆつくり御滞在で……？

ビユーロー えゝ、その積りですよ。

馭者 この前おいでになつたのは……？

ビユーロー 二年前だつたわね、とにかく私はリーベンスタインが大好きなのよ。こゝに来ると、ほんとにのびくしますよ。

馭者 へえ……わしらにすれば、なんのへんてつもねえ、山の中の温泉町でごぜえますが。

ビユーロー そこがいゝところなのでしよう。「なんのへんてつもない」ところが、ねえ、ユリアーネ？

侍女 はい。（うけただけ）

馭者 お女中さんは、始めておいでなさつただね？

侍女 はい、始めてです。

ビユーロー ……あら、郭公が啼いているようね。ちよつと、馬車を停めてちようだい。

馭者 へえ、かしこまりました。これ、ド、ド！

鞭の音

馬車が停る

静かな風……

侍女 まあ、いゝ風でございますこと…！

ビユーロー 御らん、ユリアーネ。なんという美しい自然でしよう……

侍女 はい。

ビユーロー びろうどのような緑の草、可愛いゝ花……こんもり繁つた森……青空……その青空にうかんでいる綿のような白い雲……遠くで郭公が啼く……

侍女 奥さま、郭公が……

ビユーロー えゝ、啼いているわね。……やつぱり来てよかつたわ。

馭者 ベルリンには、郭公はいねえんでごぜえますか、奥様？

ビユーロー いませんね。ほゝゝ（と小さく満足そうに笑う）

侍女 あら、奥さま……あそこにあんなにたくさん子供たちが……

ビユーロー どこに？

侍女 ほら、あの、丘の上でございますわ。

ビユーロー まあ……何をしているのでしよう。

侍女 遊んでいるのではございませんかしら？

ビユーロー 輪のなかに、お年寄りがひとり……

馭者 ハハハ……「馬鹿お爺さん」でごぜえますよ。

ビユーロー あら、なあに、「馬鹿お爺さん」つて？

馭者 ハハハ、「馬鹿お爺さん」でごぜえますよ。ドレスデンからやつて来たと申しますだが、あゝして村の子供たちを集めて一日中一しよに遊びほおけているんで、この頃わしら村の者はみんな、「馬鹿お爺さん」と呼んでいるんでごぜえますよ。

ビユーロー まあ……変つた方ですねえ。

馭者 へえ、何を考えているもんだか……大方、もうろくしたんだべ、ハハハ……郭公……

ビューロー（朗読）……これが、私が、フレーベル先生の姿を見た最初だった。しかし、その「馬鹿お爺さん」と呼ばれる人がフレーベル先生だということは、私はまだ知らなかつた。それに、フリードリッヒ・フレーベルという名前こそは知つていたが、その人の教育方針がどんなものかというようなことには、私はほとんど関心を持つていなかつた。

数日の後、散歩の途中で、私はこの「馬鹿お爺さん」に間近かで出会つた。長い灰色の髪の、やせた背の高い老人で、三才から八才位までの村の子供の一団を率いていた。子供たちは大てい裸足で着物もほんの着ているという名ばかりであつた。彼等は二人づゝ並んで丘の上へと上つて行つた。その人は丘の上で遊戯の指図をして自分も一しよに遊んだ。

その人が、以て事に当つている愛に充ちた忍耐と、一切我れを忘れきつている様子と、自分の指導で子供たちにいろいろの遊戯をさせている終始の態度には、著しく人の心を動かすものがあつた。……私は、しらずしらず涙を浮べずにはいられなかつた。

侍女　奥さま……

ビューロー　（うるんだ声で）どうして、あゝいう美しいことが出来るのでしよう…。

侍女　ほんとに、心から子供たちと一しよになつていらつしやいますのね。

ビューロー　「汝ら幼な児の如くならずば、天国に入ることを得ず」と聖書に書いてあるでしよう。ユリアーネ。

侍女　はい、奥さま。

ビューロー　あの方こそ、土地の人たちからは「馬鹿お爺さん」と云われているけど、でも、後の世の人からは記念碑を建てられる人でしようよ。

侍女　……はい。

ビューロー　……私はあのお方にお目にかゝらなければならないわ、そして、教えて頂かなければならないのだわ。

ビューロー　（朗読）その日の夕方、宿の主人から「馬鹿お爺さん」の住所を聞き、私はその百姓家を訪れた。「馬鹿お爺さん」は、一軒の百姓家を借りて、そこを教室ともし、住居ともしているのだつた。

ドアにノック（ビューロー）

ドア、開く（フレーベル）

フレーベル　おゝ、これは……

ビューロー　始めてお目にかゝる者でございます。私、ベルリンにおりますベルタ・フォン・マーレンホルツ・ビューローと申す者でございますが湯治の為こちらに参りまして…。

フレーベル　さき程、丘へ行きます道で、お目にかゝりましたね。

ビューロー　はい。それで、先生のお話を承まわらせて頂きたいと存じまして……。

フレーベル　さあ、お入り下さい。どうぞ

ビューロー　（朗読）通されたのは、教室であつた。しかし、そこは同時にこの人の書斎にも当てられているらしい。机と椅子と本があつた。また子供たちの遊び道具らしい積木が、たくさんあつた。

その人は、にこやかに私に向つて椅子にかけた。

フレーベル　さあ、どんなことをお話すればよいのでしようか？……

ビューロー　実は私、今日、先生が子供さんたちを教育していらつしやる御様子を見物しておりまして、全く心をうたれたのでございます。先生、先生はどういうお考えから、こういう御事業をお始めになられたのでございましようか……？

フレーベル　……そうですねえ……一言で申せば、それが、世の中で何よりも重要なことであるからです。なぜと申せば、奥さま、人間が今あるよりもよりよくならなければ、われわれが望んでいるすべての美しい理想は実現されませんでしよう。

ビューロー　はい、さようでございます。

フレーベル　とすれば、われ〳〵は子供のために盡さなければならないことになるのでございます。ところがこれまでの教育と云へば、便宜的な因襲や不自然な法則の中に子供を閉ぢ込めることでした。また、学問と云えば、外から無理に知識を詰め込むことだけでした。これでは、子供の創意を殺すほかのなにものでもないのです。

ビューロー　では先生はどういうお考えをお持ちでいらつしやいますのでしよう？

フレーベル　奥さま花を御覧なさいまし。美しい花を咲かせるためには種を蒔き、その種から生えた芽を日夜愛し培わなければなりません。子供は、この種なのです。種と同じように子供には神性が与えられています。……神は創造者です。そして、その創造する力を神は子供に与えられたのです。それは自然界の種の中にあります。育つものを育てなければならないのです。……子供を愛すると申しても、その子供の国を身をもつて守ることをせずして、子供に何の教育が出来ましようか。

ビューロー　……判りましてございます。落ちつきのないたゞ今の世の中に、先生のような立派なお考えの方がいらつしやいますこと……ほんとに心強く存じます。

フレーベル　私たちは、現在を、過去からも未来からも切り離すことは出来ません。すべての未来への要求は現在に始まる生命の更新です。そして、子供においてこそ、将来の種が存在するのです。

ドアにノック（母親）

フレーベル　おゝ、また誰か尋ねてみえたようです。ちよつと失礼します。

ビューロー　どうぞ。

足音　……（フレーベル）

ドアを開く（フレーベル）

母親　先生様！

フリツツ　先生！

フレーベル　おゝ、フリツツとお母さんじやないか、どうしたね、さ、お入り。

フリツツ　先生……（なき声で）

フレーベル　どうしたフリツツ……うん？

フリツツ　おらあ、いやだいやだ……（泣く）

母親　先生様……お世話になりましただが、実は、おれたちの家じやあ今度ブランケンブルクに移ることになりましたで……それで……

フレーベル　おゝ、ブランケンブルクに引越されるのか……。

母親　はい、それでお別れに来ましただ……

フレーベル　そうですか。……フリツツ、泣くんじやないよ、ほら　おじいさんが一しよに遊んであげるから、ね。ほらほら、おじいさんと遊ぶんだよ。さ、おいで、さあさあ……

ビューロー　（朗読）子供は気嫌をなおして、先生と一しよに　び出した。でも、どうしても先生と離れて、い所に行くのは嫌だという。母親が連れて帰ろうとすると、先生の首筋にすがつて、泣きながら行こうとしなかつた。

フリツツ　おらあいやだ……行くのはいやだ……（泣く）

母親　ほんに困つた子だなあ……そんなに先生の側離れるのがいやだか？

フリツツ　いやだ、いやだ……。

母親　……あゝあ、そんじやしようがねえ……フリツツお前はお祖母さまと一しよに村さ残るだ。そしたら、毎日先生に逢えるべ？

フレーベル　おゝ、それはいゝことを思いつかれた……そう出来るものなら……え、フリツツ、よかつたなあ……

母親　仕方がねえですもの、先生……先生に御めんどうみて頂くだ。

フレーベル　いゝとも、いゝとも。

母親　それじやあフリツツ、そういうことに決つたら、今日は、おいとまするべ、な、フリツツ。

フレーベル　よかつたな、フリツツ……また、これまでと同じように　ぼうね。

母親　お願い致しますだ。それじやフリツツ、先生様にさよならして……

フリツツ　先生、さよなら。

フレーベル　おゝ、さよなら。明日おいでよ。じやあお母さん、心配しないで元気に働きなさいよ。

母親　はい、ありがとうございます。では何分よろしく……

フリツツ　先生、さよなら。

フレーベル　はい、さよなら……お母さん遠者で暮しなさいよ。

フレーベル　やあ、どうも失礼しました。

ビューロー　ようございましたこと……お母さんは寂しいでしようけれども……。

フレーベル　そうですね、しかしあれもわ

が子を思う母の愛なのですね。

ビューロー　母親は、子供のためには自分の楽しみをも犠牲にしなければならないのでございますわね。

フレーベル　さよう、それこそが母の尊さですね。……つねゞ私はこう考えています。すべて国民の命は婦人の手にある。ことに母たる婦人の手にある……と、そうであつてみれば……婦人こそ人類の教育者です。婦人が教養をもたなければ、人類の未来の幸福は完成されないのです。

ビューロー　そういうことになるのでございましようか。

フレーベル　つきましてはね奥様、私はこのリーベンスタインで、子供の教育と同時に婦人のための教育を始めようと思つているのです。つまり、子供を教育するための保母の養成所をこゝに開こうと考えているのです。

ビューロー　まあ、さようでございますか。

フレーベル　あゝ、このリーベンスタインに、世界ではじめての幼稚園と保母養成所が出来るのです。

ビューロー　「幼稚園」でございますつて？

フレーベル　さよう、キンダー・ガルテン……子供の園です。……

ある晴れ渡つた春の日、私はカイルハウからブランケンブルクに行く途中の峠道を歩きながら、はつとこの名前を考えついたのです。キンダー・ガルテン……幼稚園……「これだ、これだ！」と私は叫びました。

ビューロー　先生、失礼でございますが、先生のお名前は……？

フレーベル　私ですか、私の名は、フリードリツヒ・フレーベルです。

ビューロー　まあ……先生があのフレーベル先生でいらつしやいますか。

フレーベル　そうです。私はフレーベルです。そして私が名づけたのがキンダー・ガルテンです。奥さま、これほど子供の学校にふさわしい名前がほかにあり得るでしようか！これから五年・十年……そのうちに、世界中の国々にキンダー・ガルテンが設けられるのです。そしてそのキンダー・ガルテンの門は、神の国に入る門となるのです。

ビューロー　（朗読）リーベンスタインに滞在している間中、それからは、私は毎日のようにフレーベル先生の許に伺つた。先生が子供たちに抱いてやる愛は何という純粋な愛情なのだろう。愛は、先生の眼から輝き出で、磁石のように子供達を惹きつけるのである。それは、先生が子供たちの内にその若い芽を見出している人間愛である。こういう時、「私はひとりひとりの子供の内に完き人の可能性を看る」と先生のおつしやつた言葉が、私に不滅の印象を与えたのであつた。やがて、私がベルリンの夫の許に帰らなければならない日が近づいた。よくよく考えた末、私は侍女のユリアーネを、フレーベル先生の許に残して行くことにした。先生の保母養成所で、彼女を教育して頂くためである。

ドアにノック（ユリアーネ）

ビューロー　お入り。

ドアの開閉（ユリアーネ）

侍女　奥さま、お馬車の用意が出来ました。フレーベル先生は御門のところでお待ち兼ねでいらつしやいます。

ビューロー　あゝ、そうですか……ところでユリアーネ、あなたは本当にこゝに残つてくれますね。

侍女　はい、奥さま。

ビューロー　私の代りに、先生の教えを受けて下さいね。

侍女　はい。

ビューロー　寂しくはないでしようね……もし、寂しいと思つたら、私と一しよに帰つてもいゝんですよ。

侍女　いゝえ、奥さま、寂しくはございません。フレーベル先生は、奥さまがお亡くなりになつてから、もう十年あまりになると伺いました。あのお年で、おひとりでいらつしやるフレーベル先生の方が、私などよりは、ずつとずつとお寂しくていらつしやるのですわ。私、先生のお傍にいてさし上げとうございます。

ビューロー　そう……お願いしますね、ユリアーネ。私は、また必ずこゝに帰つて来ますからね。その時には、あなたも立派に先生のお手伝いが出来るようになつていて下さいよ。

侍女　はい、奥さま。
馭者　奥さま……まだお出かけになりましねえだか……！
ビューロー　あゝ、呼んでいるわ。さあ、では出かけましよう。

ビューロー　（朗読）お別れの時、フレーベル先生は私に一冊の本を下さつた。それは、「人間教育」と題する、先生の御著書であつた。この御本の中に、教育に関する先生の御抱負はすべて書かれていた。
さて、ベルリンに帰つた私は、宮廷につかえる夫の妻として、忙しい日々の営みに逐われていた。フレーベル先生やユリアーネとの文通は続けながらも、月日が流れて行つた。

静かに始まり、激しくもり上る
ビューロー　一八五一年、八月。悲しむべき破局が訪れた。プロシヤ政府によつて、幼稚園禁止令が発布されたのである。
何としたことであろうか。私は、夫ともども、この禁止令のよつて来たる原因を探つてみた。原因は、フレーベル先生の甥カール・フレーベルと先生とを取り違えて、カールが社会主義運動に関係していたために、フレーベル先生の幼稚園は、社会主義的無神論的傾向を有するものと看做されたのである。
何という誤解であろう。しかし、それが誤解であることが明らかになつても、政府は己れの非をあばくことをおそれて、禁止令を解かないのである。あの、信仰深いフレーベル先生が、かりそめにも無神論者と誤解され、生涯の御事業を根絶しにされて、どんなお心でいらつしやるだろうか……？そう思うと、私はもうじつとしていられなくなつた。
……馬車……

ビューロー　私は、はるかな道中を、先生の許に急いだ……。
別な歩調の馬車、駈ける……

馬車……近づく……
馭者　ドウ、ドウ、ドウ……
鞭の音
馬車　停る
馭者　奥さま、着きましてごぜえます。
ビューロー　扉をあけて下さい。
馭者　へえ。
馬車の扉を開く（馭者）
降りる足音……（ビューロー）

ドアにノック（ビューロー）
ドア、開く（ユリアーネ）
侍女　まあ、奥さま！
ビューロー　おゝ、ユリアーネ！
侍女　よくおいで下さいましたこと、奥さま……（声がうるむ）
ビューロー　先生は……先生はお元気ですか……？
侍女　はい。（OFF）先生、フレーベル先生、フオン・マレーンホルツ・ビューローの奥さまがお見えになりました。
ビューロー　まあ、先生！（と、遠くに）急ぐ足音……（ビューロー）
フレーベル（やゝOFF）おゝ、これは奥さま……！
近づく足音……（フレーベル）
ビューロー　……フレーベル先生！
フレーベル　よくおいで下さつた！

ビューロー　……先生、お寂しくていらつしやいましようね……。何と申し上げてよいか……。
フレーベル　仕方のないことです。私も一時はがつかりしました。しかし、三十年来の私の親友、ウイルヘルム・ミツデンドルフが、馳けつけて、私を慰め勵ましてくれました。それから、こうして奥さまもはるばるおいで下さつた。
ビューロー　いえ、私などは……
フレーベル　奥さま、今では私はちつともがつかりなどしてはおりませんよ。なぜと申せば、私の背後には、私の本を読んでくれた人がたくさんいます。また、私と遊んだことのある子供たちもたくさんいます。禁止令が解かれるのも、ながいことではありますまい。もし永いようでしたら、私はアメリカ合衆国に行く積りです。あの自由の国で、子供たちと一しよに楽しい幼稚園を開く積りです。そうです。私はちつともがつかりなどはしていません。私には神と真理とが味方なの

ですからね、ハハハ……

ビューロー　（朗読）その翌年になつても、幼稚園禁止令は解かれなかつた。そして、フレーベル先生も、アメリカへは行かれなかつた。先生の御健康が、それをゆるさなかつたのだ。ある日、ユリアーネからの手紙が屈いた。

侍女（手紙）悲しいお知らせを致さねばなりません。六月二十一日、フレーベル先生はお亡くなりになりました。ほんの二月前、満七十才の御誕生日のお祝いに、子供たちの手によつて月桂樹の冠をお飾られになつたのでしたが……。

先生は、ミツデンドルフ様と私とが、おみとりする間に、静かに安らかに、苦難の多かつた御生涯をお閉じになられたのでございます。

ビューロー（朗読）いまは、幼稚園禁止令も解かれた。先生のお言葉「いざやわれらをわれらが子供に生きしめよ」を刻んだ墓標の下で、先生はほゝえんでおられることであろう。私は、始めて先生の教えを伺つた時の、あの先生の力強いお言葉を、いまもなお、ありありと耳に聞く思いがする。先生の予言は実現されたのだ。

フレーベル　キンダー・ガルテン！これほど子供の学校にふさわしい名前がほかにあり得るでしようか！　これから五年、十年……そのうちに、世界中の国々にキンダー・ガルテンが設けられるのです。そしてそのキンダー・ガルテンの門は、神の国に入る門となるのです。

（おわり）

放送劇

『幼稚園の父フレーベル』聽觀記

倉橋惣三

昭和二十六年六月二十四日午前。NHKから、『光を掲げた人々』の一つとして、『幼稚園の父フレーベル』が放送された。フレーベル百年記念行事の中に加えられたものである。資料提供の関係もあつて招かれたが、私としては、恐らく世界で初めてだと思うフレーベルの劇化演出が是非観たかつたので、非常の喜びと期待とを以て、放送局に出かけた。NHKでは、二十一日、フレーベルの忌日、東大の宮原誠一君・東京都の教育指導主事山村きよ子・東京都文京区長井形夫人の三君と私との『幼児教育を省みて』という座談会で、日本の保育界の歴史と現状と共にフレーベルについて語る機会を与えられまた廿四日此の劇を放送されたのである。本年はフレーベル百年記念に因む種々の催が世界諸国に行われたことゝ思うが、普波にのせて斯くの如く広く伝播された例は、我国だけではないかと思う。愉快の至りである。われらフレーベル学徒として、日本放送協会に深く感謝するものである。さて私は、第四スタヂオの演出者（プロデューサー）の傍に立つて、厚い硝子越しに、演出の場内を観たというか、聽いたというか、目と耳をこらして、三十分間を楽しんだ。スタヂオの大部分はオーケストラによつて埋められ、それと屏風で仕切られた一隅に、上から下げられているマイクロホン、小卓の上におかれた

マイクロホン、この二つのマイクロホンを中心にして、次々に声の演技が進められてゆくのである。声の演技ではあるけれども、身のこなし顔の表情、手や足の軽い振りは、せりふにつれて行われる。殊に、相語りあう眼の動きは、柔かくも強くも真にせまる。それらの点は、テレビジョンの普遍していない今日、私の拙い筆ながら、こうして皆さんにお取りつぎする他はない。前掲の台本を読まれるたしにもなつたら、おなぐさみである。

目の前に見えるは、リーベンスタインの丘である。私は、前日、フレーベル百年記念講演会（お茶の水女子大学講堂）で、フレーベル遺跡巡礼中の一番深い思い出をこの丘に寄せた。そこの林檎の景色が、ありゝと目に浮ぶ。放送劇はイメーヂ劇である。しかも、こうして放送を観ていると、俳優の簡潔な仕草や巧みな擬音に描き出されて、そのイメーヂが一層まざゝとする。

遠く近く郭公の啼く声がする。遠くから馬車の近づいて来る響がする。馭者の鞭の音も聞える。

吊されたマイクを挾んで、いんぎんな馭者と上品なビューロー夫人との話が始まる。馭者はワイシャツにズボン姿で、黒いベレー帽を被つている。小肥りなビューロー夫人は、品のいゝ黒つぽい柄の薄地のワンピースを着て、丘の上の空気の爽かさを喜んでいる面もちである。（私はビューロー夫人の写真を見たこともない。しかしその著書「フレーベル追憶録」を通して、予て心に描いている姿、気分は、この東山千栄子によつて、そのまゝに表現されている。この女優には、他の役柄の舞台姿を看たことがあるだけで、素顔を見たのは始めてゞあるが、ベルリンの貴族の夫人であり、フオンと敬称される、マレンホルツ・ビューローその人を、始めてこゝで見るような気がする。実に適役である。東恵美子の侍女ユリアーネは、品位高いビューロー夫人に配して極めてつゝましやかに、又チャーミングである。こぼれるような愛嬌で、夫人の言葉に受け答えする可憐さが、二人のスターのふけ役の間を彩る。びろうどのような緑の草、こんもり茂つた森、その美しい色の彼方に、里の子供達が一人の老人を中心に輪をつくつて遊んでいるのを、ユリアーネが見つける。馭者が『ハハハ……馬鹿お爺さんでございますよ』という。——これがフレーベルの最大の理解者であり、尊崇者であり、後援者であり、先づ自国へ、次に英国へ、それから世界へ、フレーベル主義の大宣伝者となつた、マレンホルツ・フオン・ビューロー夫人がフレーベルを見た初めである。郭公は盛んに啼き続けている。

舞台劇ならばシーンが変るところである。声劇ではシーンはすべてイマジネーションに委ねる。こゝはフレーベルの住いの場である。さゝやかな百姓屋の一室、住居と教室とをあわせて乱雑な光景よろしく、この想像はできるだけ一切の装飾を制限しなくてはならない。戸口の方にノックの音が聞える。ビューロー夫人の訪問である。「おゝ、これは……」

台本を手にして立つている、青山杉作のフレーベルの声は、渋く落ちついている。

これが、ビューロー夫人とフレーベルとの最初の邂逅舞台用語でいえば、二優の出あいである。と同時に、私がフレーベルの姿というものを画面以外に見た最初である。白のワイシャツに薄鼠色のズボンをはいた身なりは、写真や画中（寺内万治郎画伯に描いて貰つた）のフレーベルの黒い、長めなコートとは一つでないが、そんなことは、どうでもいゝ。広い前額から、油気もなく後ろにかき上げた長髪、少し前かゞみに、ビューロー夫人を迎える長身、それよ

りも、頬の細い、クラバルデの分類による思想的性格型の顔、……私は思わず、傍にいる作者の寺田氏を顧みて、『そつくり』といつた。フレーベルは客人に椅子をすゝめて、自分も静かに座についた。と私のイメージが見た。

両者の品のいゝ会話（台本の通り）が暫く続いた頃、再びノックの音がした。川上夏代の母親が、子供のフリツツを連れて来たのである。渡辺少年のフリツツは、フリツツそのものかと思われる質実可憐な顔立である。まだセリフに入らない前から、顔をしかめて泣いている。後ろに一人の少年が附添うている。これは真の附添いで、劇には関係はない。

フリツツが泣き声で『先生』と叫んだ。フレーベルの顔が一段とやさしくなる。

フレーベルとフリツツの母親との会話から、感激に溢れたビューロー夫人とフレーベルとの会話に再びかえつたところへ、またノックの音がする。ユリアーネの明るい顔がビューロー夫人に、目をみはりながら近づく。夫人の命によつて、フレーベルの保母養成所に残ることになるのである。

こゝでシーンがかわる。幼稚園令禁止の政令に驚いて、ベルリンから馳けつけたビューロー夫人の思づかい、沈痛なフレーベルのおもも、……オーケストラ静かに幕というところである。丁度十時。

私達はロツビーに出た。立話の間にも、フレーベル先生、ビューロー夫人、とよびかけそうになる。アフター・イメージが眼に残る。私は寺内画伯作のあの『リーベンスタインのフレーベル』の絵の複製を、きようの記念に送ることを山氏に約して、放送会館を出た。外は日曜日の午さがりの新橋に近い大通りの雑沓であるが、私の車はイメージのリーベンスタインの森に沿うて走る。

（六月二十五日）

フレーベル研究のために

長田新著

フレーベルに還れ

B6判三九頁 定価三〇円

凡そ幼稚園教育の真精神は、基督教の真精神がキリストのといた教に、そして佛教の真精神が釈迦のといた教にかえるように、フレーベルその人のといた教にかえるのでなくては決して把握出来るものでない。この信念が奔出してこの書をなすに至つた。

（著者序文より）

荘司雅子著

フレーベルの教育學

A5判上製四五〇頁 定価四〇〇円〒三五円

人類教育の全史中最も深遠難解であるとされるフレーベルの教育思想を最も端的に解明せるもの。

幼児の教育（第五十巻・第六号）

『フレーベル百年記念第一特集号』

内容

○フレーベル年譜
○フレーベル百年記念特集号に序して
日本に於けるフレーベル研究を顧る　倉橋惣三
○フレーベル教育学の根本問題　広島大教授　長田新
○フレーベルの幼児教育論　広島大助教授　荘司雅子
○アメリカに於けるフレーベル運動　頌栄短大講師　水野浩志
○フレーベルの生涯　御茶の水女子大講師　津守真

講読希望の方は送料共金五十八円を添え注文下さい。

東京都千代田区神田神保町2—4　振替東京19640番

株式會社　フレーベル館

園長學第一歩（三）

―管理者としての園長―

文部事務官　玉越三朗

五、幼稚園管理の實際

1　管理主体

管理を実際におこなううえ、その管理の直接の責任者は誰であるかということを、園長は明確に知つておく必要がある。この点が不明確であると、管理の実際に混乱がおこり、結局園長としてやらなければならないものもできなかつたということになる。

管理主体―管理をする直接の責任者―は、前項の表をみればわかるように、設置者または管理者か、幼稚園か、園長である。（一幼稚園を主として考えた場合）

(1)　設置者

学校教育法では、幼稚園全体の管理者として、設置者をあてている。「学校の設置者は、その設置する学校を管理する。」（六条）とその幼稚園の設置者に、設立維持に関する一切の責任を負わせて、設置管理の原則を示している。（市区町村で教育委員会のできていないところは、法令はしばしば管理のうち設置および維持の事務を中心として、幼稚園の管理者に市区町村長をあてているが、これは設置者と管理者を別に考えていた、もとの考え方の名残である。）

(2)　幼稚園

法令は時に「学校（幼稚園）」を管理者としている場合があるが、この場合は、実際誰にその責任があるかということを、その場合場合で判断しなければならない。

例えば「学校においては、授業料を徴収することができる。」（学校法六条）という場合は、設置者であるが、「学校においては、……幼児並びに職員の健康増進を図るため、身体検査を行い及び適当な衛生養護の施設を設けなければならない。」（学校法一二条）という場合は、学校身体検査規程第

四条および第七条によつて、園長となる。

なお法令は、ときに「学校（幼稚園）」という同じ言葉を次の二つの意味に、使つているので、その解釈の場合、よく注意する必要がある。その一つは幼稚園の行爲に主点を置いて使つている場合であるが、この場合は、幼稚園を行爲主体とみて「……してはならない。」「……しなければならない。」と表現している。他の一つは幼稚園の状態に主点をおいた場合で、この場合は、幼稚園を行政上の営造物とみて、「施設」としてあつかつている。（学校法第八五条）

(3) 園　長

前項の表をみてもわかるように、園長は法令上しばしば管理主体となつている。しかし現実には、幼稚園はもちろん設置者の管理の責任まで負はなければならないので、園長の管理者としての責任は、まことに大きいものがあるといわなければならない。

2　管理の方法

幼稚園管理が、教育の目的や目標を達成するための計画的継続的な統制活動である意味から、その方法については当然次のようなことが考えられなければならない。

一、幼稚園教育が、その機能を最大限に発揮できるように、人的にも物的にもあらゆる考慮を拂つて、周到な計画を立てること。

二、その計画にしたがつて、人的にも物的にもそれらが最大の能力を発揮できるように組織し整備すること。

三、右の機能が常に改善され進歩してゆくこと。

なお管理計画の方針を立て、管理組織を作るためには、次の点に留意する必要がある。

イ、その幼稚園の必要とする管理事務の範囲内容はなにか。

ロ、園長としてもつとも重大な管理上の責任をもつものはなにか。

ハ、その年の管理の重点をどこにおくか。

ニ、その年の教育目標の重点はなにか。

ホ、各教職員の特技、経験、性格、趣味はなにか。

ヘ、園や地域社会の実情はどうか。

ト、各部門、中心となる教職員が配置できて、じゆうぶん活動することができるか。

チ、各部門のしごととその責任ははつきりしているか。

リ、各部門はたえず緊密な連絡協調ができるか。

ヌ、各人の負担が不均衡にならないようにできるか。

ル、園長不在の場合も、とどこおりなく管理ができるか。

(1)　人物部面の管理

管理の方法をここでは便宜上人的管理と物的管理と園務とに分けて説明することとする。人的部面の管理はこれを教職員の管理と幼児の管理とに分けて考えることとする。

一、教職員の管理

イ、人事権

学校教育法第五条の「学校の設置者は、その設置する学校を管理し、……」の管理の意味を考えると、人的、物的施設の全般の管理を意味している。したがつて、人的物面の管理すなわち教員の人事権も、原則として設置者が持つことになる。

しかし現実には、園長が実際の選考に当りその通知は形式的に行われるから、人事権の大半は園長にあるといつても過言ではない。設置者管理の特例として認められている公立幼稚園の場合を考えてみても明らかであつて、教育公務員特例法によると、教員を採用しようとする場合は、都道府県教育委員会の教育長が、その教員を採用しようとする幼稚園の園長の意見を聞いて選考し（特例法一三条）教育委員会が任命するようになつている（教委法四九条特例法一五条）から、設置者である市町村には人事権はなく、実際には園長と教育長にあるといつてよい。（ただし市町村でも教育委員会を設置しているところは別である。）

したがつて園長は、この人事権を行使するためには、この幼稚園にはどのような教員が必要か、それに適する人はどんな人かを常に念頭におかなければならない。採用や昇任に当つて、自己の主観にかたよつたり、利慾や権力によつて不当に動かされたりして、教員を正しく評価することができないで、教育計画を正しく推進することができないような者を採用し或いは上位につけたら、決してよい管理はできない。

ロ、身分保障

よい教育を行ない、教育目的を達成するためには、第一に優良な教員を採用しなければならないことはいうまでもないが、その教員が安心してたえず研究調査を重ね、向上進歩してゆけるように努力することも、管理者としての園長の大きな責務である。このためには、教員の身分保障を考えなければならない。現在形式的には国公立は国家公務員法、地方公務員法、教育公務員特例法等によつてほゞ目的が達せられた形になつているが、実際には幾多の困難がある。この解決は今後における大きな研究問題であると考えられる。

ことに私立の場合は、一般勤労者と特に異つた身分保障に関しての規定もないのであるから、非常に不安である。

したがつて園長はすべての教員が安んじて教育に専念できるような、自主的な内部規定でも定めるようにし、さらに進んではその確立に努力する必要がある。

園長として、自己の保身に汲々として部下の身分に冷淡であつたり、不当な権力に屈してよい教員を免職したりするようなことは、誓つて避けるべきである。

なお園長は、任用上の地位の保障や不当な不利益の排除等の消極的な措置ばかりでなく、教員の能率を最大限に発揮させるために、積極的な福利厚生の途をも考えなければならないであろう。教員に対する保健衛生の施設や安全保持の措置等を計画的に行うようにしたい。

ハ、職員組織

教員の教育活動が最高度の効果をもたらすように、教員を組織しさらに各教員が相互に相協力し調和して、円滑にすべての活動ができるように用意することは、幼稚園管理上もつとも重要な点である。

学校教育法第七条には「学校には校長（園長）及び相当数の教員を置かなければならない。」とあり、さらに第八十一条では「幼稚園には、園長及び教諭を置かなければならない。幼稚園には前項の外、必要な職員を置くことができる。」といつているが、その幼稚園に教員を何人置く必要があるか、そのうち教諭は何人か、事務能率をあげるために事務職を置くか置かないか、衛生養護をいろうなく行うために養護教諭をどうしても置く必要があるとか、用務員の人数をどうするか等は全く園長の責務である。

現在教諭の定員は、最低幼児四十人に対して一人であるが（学校法施規七五条）これは、四十人以上保育すると、教育効果がなくなるおそれがあるから、このように規定したのである。したがつて園長はこの本旨をじゆうぶん理解して、よき管理者としての最善の努力をしなければならない。

なお助教諭に組担任の責任を与えなかつた理由は、幼稚園では幼少な幼児をあつかうのであるから、その教育については小学校より熟練者を必要とする、その小学校においてすら「小学校においては、校長の外、各学級毎に専任の教諭一人以上を置かなければならない。但し、特別の事情のあるときは、校長が教諭を兼ね、助教諭を以て、教諭に代えることができる。」（学校法施規二一条）と特例としてのみ認めているにすぎないのであるから、幼稚園では一組の担任者としてはこれを認めず、教諭の担任する幼児が多い場合、その教諭の職務を助ける者として認めていることを承知してもらいたい。

なお職員組織の最重点は、組担任者の組織をどうするかにあることはいうまでもない。

園長はその組織については、その教員の資質や経験や性格等を組の幼児の傾向等の諸要素をじゆうぶん研究して、各教員が最大限の能力が発揮でき、教育効果がもつともあがるように、最善の努力をしなければならない。

二、研修と修養

教員の研修と修養とは、教育活動に間接的ではあるが影響するところが大きい。教育公務員特例法にもその必要を認めて「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない。」（第一九条）「……当該教育委員会は、教育公務員の研修について、それに要する施設、研修を奨励するための方途その他研修に関する計画を樹立し、その実施に努めなければならない。」（同条）といつて直接には教育委員会に責任を負わしているが、とくに「所属職員を監督する」（学校法八一条）責任のある園長は、所属職員についての研究修養には、積極的に努力しなければならない。

ついでであるが、誤解を防ぐため学校教育法の「……監督

する」意味は、決して部下職員を監視する意味ではなく、部下職員がその最大の能力を発揮して教育することができるように、園長としてあらゆる助言助力し、教育効果がよりよくあがるようにするという意味であることをつけ加えておく。

二、幼児の管理

イ、組の編制

幼稚園がその教育の目的や目標を達成するために、幼児をどのように組織するかということは、職員組織とともに管理のもつとも根本となる問題である。

出生の順に組を編制するとか、たんに年齢の同じ理由で一組にするとかはあまりに思慮のない編制方法である。教育の目的をよりよく達成するためには、幼児の興味、能力、必要等をじゆうぶん研究調査し、個性にそくした教育のできるような方法を考えて組織するようにしなければならない。

なおこれとともに、組の幼児数をどうするかということも考えなければならない。学校教育法施行規則には「教諭一人の保育する幼児数は、約四十人以下とする。」（第七五条）といつているが、一年保育の幼児、二年保育、三年保育の幼児ははたして何人がよいか、この教諭に対して何人が適当かじゆうぶん園長には考慮する必要がある。

ロ、出席の奨励

教育の効果をあげるためには、幼児の完全な出席を保持することが必要である。なぜならば欠席は教育効果がその期間零に等しくなるからである。とくに幼児の教育が言葉で行われることが少なく行動を主とする生活指導であることを思えば一層必要な条件となる。これがため学校教育法施行規則（第三七条、七七条）でも在園する幼児の出席簿を作り、その出席の状況を明らかにする責任を園長におわしている。園長はたんに出席状況を明らかにするにとどまらず、すすんでその原因を探究して障害を除去していかなければならない。

なおそのためには、出席の意欲を増すことや障害となることを未然に防ぐように措置することや出席督励のための家庭と園との協力組織等をじゆうぶん考えておかなければならない。

その他幼児の管理については、指導助言者としての園長の任務と関係の多い保育日数や一日の時間数、休業日、一年の行事等あるが、これは教育課程や指導と離すことができないから、そのほうで述べることとする。

(2) 物的部面の管理

一、施設設備の保全

幼稚園の施設は、幼稚園教育を構成する重要な要素であり、教育方法を規定する大きなものである。幼児と教師はこれらの環境の内で毎日教育活動を行つてゆくのであるから、これら施設設備を考慮せずに教育計画を立てることはできない。ゆえに施設設備の管理は教育上軽視できないものがある。ことに幼児教育では適当な環境を与えて保育するのが主眼であるから、他の学校と異つて特に大きな意味をもつてく

る。施設設備の管理の直接の責任者は設置者であるが、園長も園地園舎等を立派な状態に保持する責任はじゅうぶんある。そして常に施設設備本来の使命が達成されるような状態におくように常に努力すべきである。

そのためには、園長は修理と美化に常に留意し、幼児及び教員と協力して、その健康と安全にわざわいとなる何らの危険もないことが保証できるように細心の注意をしなければならない。

それには、維持計画を周到に立て、日々の管理を厳密に行ない、用務員等にまかしておくことなく、一日に一回は園長自から点検して、破損している所はないか、使用に不便な所はないか等をしらべ改善すべきは直ちに改善し、園自からの改善では到底維持できないと認めた場合は、すみやかに設置者に連絡し保全に努めるべきである。

なお施設に対する法令上の規定は、現在のところないが園長は教育の目的を達するためには保全ばかりでなくすすんで改造に努むべきである。

二、施設設備の最大限の活用

施設設備の管理にあたつて、園長のなすべきことには、保全に努めるばかりでなく、すすんでそれらを最大限に活用して、幼児に適当な環境を与えることを保証することである。各組の幼児が適切な時期に適切な場所や遊具を使用できるように、特に遊戯室や屋外遊戯場（運動場）等の使用を計画的にして、各組は互いに支障なく指導が行われ、しかも園全体に少しの不用の場所や施設や設備がないように有機的な活用をするよう留意すべきである。

どんなよい施設設備も活用されなかつたら、無に等しいものであり、かえつて無い方が広々としてよいと感ずる場合もある。このような管理は決してよい管理とはいえないのであるから施設設備の活用には細心の注意を拂うべきである。

三、衛生と清掃

幼稚園においては、幼児の衛生が特に必要であると同様施設設備は特に衛生的な考慮が必要である。抵抗力の少くない幼児であるから、物的環境の不衛生は幼児に大きな影響を与えるのである。たとえ施設設備は古くとも、常に衛生に留意して清潔を保ち、最善の効果をあげるよう努力すべきである。このためには、園長がすゝんで清潔に努め、清掃を計画的に実施してゆくべきである。そして今後は、いやしくも幼稚園は伝染病のばいかい所であるといわれるようなことのないようにしたいものである。

(3) 園務

「園長は、園務を掌り、……」（学校法八一条）とあるように園務を処理することは園長の責任である。しかしこれは広範な実際のしごとを、すべて園長がしなければならないという意味ではなく、園長の委任のもとに各職員がその能力に応じて行うのであるが、この園務には二つの形がある。その一つは直接教育活動に関係するものであり、他の一つは間接に

関係するものである。後者がいわゆる雑務といわれるものである。

園務が教育活動に直接関係するものであるにせよ間接に関係するものであるにせよ、その事務はよりよい教育の効果をあげるために必要なものであるから、園長としては最善の努力をはらい、いついかなるときでも実際の教育活動に役立つように管理を万全にし、教員をこのために無用に努力させ、教育効果をそぐようなことのないように、留意しなければならない。

以下園務の主なものについて考えてみよう。

一、書類や諸表簿の保管

幼稚園に備えておかなければならない表簿の最低限は、学校教育法施行規則（第一五条）で左のように定めている。

1 幼稚園に関係のある法令
2 園則、日課表、幼稚園医視察簿、幼稚園日誌
3 職員名簿、履歴書、出勤簿、担任組名
4 学籍簿、出籍簿及び身体検査に関する表簿
5 入学考査及び成績に関する表簿
6 資産原簿、出納簿及び経費の予算決算についての帳簿並びに図書機械器具、標本模型等の教具の目録
7 往復文書処理簿

幼稚園経営のためには、この外幾多の諸記録や報告書、研究録等用意される必要があるが、これらの管理とは、たんにこれらを作製し、準備して置くことばかりではない。これら常に最大限に活用されるようになつており、さらに安全に保管されていることである。

例えば幼稚園に関係のある法令にしても、ただそろえておけばよいのではなく、常に使用できるように、加除訂正しておき、どのように何時変つたかを明らかにしておかなければならない。

なお前掲の表簿のうち指導要録又はその抄本は十年以上、その他は五年以上保管することになつているので、保管の方法についても考慮する必要がある。

二、教育計画、指導計画表等の準備と整備

幼稚園としての指導目標や教育目標の下に幼稚園全体としての計画を準備し、その結果によつてさらに改善するようにする必要がある。（詳細には指導者としての園長にゆずる。）

三、保育日時数と休業日等の決定

（指導者としての園長にゆずる）

四、経理事務

予算決算を作製して関係者と協議し、あるいは金銭の出納、購入すべき物品の決定、または教職員の俸給等常に明確にしておく必要がある。

五、幼児や教師についての事務

幼児の出席状況を明らかにしておくことや轉園の際の指導要録の送付等や教師の報告書の点検等。

六、図書や備品の管理

図書や備品を購入し、これを配分し　（四八頁へ）

…★私の記録より★…　(2)

御茶の水女子大學幼稚園
堀合文子

不安ながらも計画は種々たてましたが、一年後の現在どの程度実行されたか、又どんな結果があらわれたか、こゝに反省してみましよう。前回にも述べたように計画がその通り実行されたのではありません。むしろ実行されなかつたと言つた方が適切かもしれません、がただ社会的生活が出来、健康なる生活がおくれゝばそれでよいとのみ希望を持つて過して来た事、重ねて一言かきそえておきます。

○お　話

△計画　お話は年少ほど活用範囲も広く材料もたくさん用意しておく。内容は平易なもので物語式のものは一応考慮し時をまつ。

お話合いの機会を多くして、ただ話して聞かせるのでなく話合いつゝ話すような法をとる。

絵本をみて話したり、紙芝居を多く利用する。

△実行　出来るだけ平易なものを選択したつもりだが、一向に面白そうでなく、話方のかげんとか、一、二回繰返したが、おもしろそうでない。そこで今度は、絵をみせながらお話をはじめた。勿論、紙芝居も絵本もこの場合効果的であり、これで幼児達の顔にも理解と楽しさがみえて来た。一学期の間は唯聞かせるお話はやめて絵によるもののみにて過し二学期に入り、理解力がついた様なので話を初めてみた。この時より聞くお話とゆうものに興味が出て来て、自分達より要求してくるようになり、此方の期待どおり、面白い時は共にわらい、こわい時はと、喜怒哀楽を表現する様になつて来た。即ち、聞くお話を理解するようになつたのでしよう。現在は、相当の筋の通つたものの方をよろこび、物語式のも絵本に出ていると特に話してと要求して来るようになつた。一つの進歩は、自分達がお話をお友達に聞かせるように

なつて来た事でこれは皆ではないが一部の女児にこれがみられる。

それから、お話合の場合、初めはただ例えば日曜にした事を話す場合「玩具であそびました」とのみ言いましたが、現在は「誰と何をどこでした」とか「誰と何処へゆき何をしてどうだつた」というように複雑な文の構成も出来るようになつた。一時、最年少者のものがこの発表をしなかつたが、現在は皆喜んでやるようになつた事を附加えておきます。

△反省　三歳児には絵のお話合より、入つていつた方がよかつた。

大人がいわゆる平易でたわいのないものとして、年少者用に選択したのはむしろ理解しにくいもの丶ようだ。（例えば談話集の中のポコポコ等）

年少程、副詞、擬音を沢山用いてその様子を如実に表現した方がよいようだ。

紙芝居の本当によいものを豊富に用意しておきたい。

もう少し話題を広範囲に選択すべきであつた。

○製　作

△計画　これはあまり期待しないことであつたが、将来の基礎ともなる技術なるものをしつかりこの一年でつけようと考え、同じ材料でも、この年齢においては先生の手伝う個所が多くなるかもしれませんが、広く経験する意味で生活の中へ製作も折込みました。

先づそれには段階を踏んで、塗る事に一週間、切る事に一週間費やす。勿論その時の材料は塗るだけで完成するのでなく、先生の助力もかりて、すぐ遊べるものを選ぶ。

当分の間この様に部分的のものを続け後、それを遊びの中に誘導し小さい主題の元に発展させる。

この一年は遊びより引出した小さい誘導にとどめて、後述のかく事、切る事、ぬる事を皆がある程度興味が持てるようにする。

△実行　此方の目的の、塗る事、切る事はとかく、つまらぬ練習的になり易い為、製作後すぐ遊べるものを特に選び、むずかしい所は先生の助力をもつて一つの者を完成しました。

材料は細かい手の込んだものはさけて、大まかな興味のありそうな題材をえらびました。

一学期は部分的な関連性のあまりないもの。

二学期は遊びの中から製作へ発展させて小規模な誘導保育として汽車どつこを主題にとりました。

三学期は、一年間の足跡をたどる為におしどと展覧会を開き、お互いに反省したわけです。

△反省　一つの製作を完成するには、そこに塗ることあり、切る事あり、画く事があります。部分的にした場合はその一部のみ幼児達が経験するわけで、わざわざ今日は塗る練習、今日は切る練習、といわなくも、此方の仕度の程度で目的

は充分です。幼児達が楽しんで興味を持つて製作し又その製作後はそれで幼児達の生活を楽しましてくれる様な題材を選ぶ事が、三歳児には一層必要で又その幼児達の製作する部分を此方の目的によりよく検討して、三歳児に過重でなく目的が経験されるように準備する事が必要だと思いました。

鋏は下手ながらも全部のものが一応つかいました。その中、年長者と同様スムースに使えた者が、男子四名、女子六名。鋏を使うことに一生けんめいで、筋などたどつては切れぬ者、男子四名、女子一名。二学期の終り頃よりこれらの者も筋を辿つてスムースに切れるようになりました。一年後の現在は相当厚紙も自分達で何とか筋通り切ります。

二学期の終り頃、やたらと皆が切る紙を下さいと言つて、チョキチョキ紙を細かく切つては色々形をつくつていました。

唯の紙を与えて好きなものを作らせましたが、少し無理なのか、一生けんめい工夫して何かつくろうとする者が、男子三名、女子三名。他の者はあまり興味を持つていませんでした。作品は勿論上手でなく、色も別についているのでなく、見ても何か一見わからぬものですが、三歳児でやろうとして工夫しただけで一つの收獲だと思いました。今後もこのような面を大いにすべての幼児達にも、のばしてあげたいと思つています。

○観　察

△計画　観察の目的を持つて環境を常に考慮する。

実際に飼育出来るものはする（動物、虫類、植物栽培）

お話合によつて皆の生活の中より観察の材料をみつけてこれを発展させる。

絵本を利用してお話合より観察の目的を考慮する。

質問が多い年齢だと思うので、その質問に対する態度を考え、伸ばしてゆくようにつとめる。

△実行　観察の点に於ては私の失敗で、環境には注意をしたのですが、実際に飼育し、経験させる方の計画は殆んど実行しなかつたといつてもよい位でした。計画の時は年長組より特に豊富に経験させる為の準備が必要と思い部屋の中の飼育、植物の栽培等夢といいましようか、理想を画いていたのですが、一つに人数の少い為の材料費の経済上と、それに今考えると私の実行力の薄かつた事も大なる原因で、この欄にはあまり記録が上らなかつたわけです。

他の組で飼育していられるものは拝見する位の程度でした。

四季とゆう事は相当観察しました。

比較的男子の方が話合等の時に積極的で又細かい観察力も持つていました。

△反省　前述のように観察は実に貧弱なもので、特に経験する上には本当に子供達にも申訳ないと思つて責任を感じております。

何事もそうですが、私自信観察に興味を持ら、知識を持たねばならぬと思いました。

○お畫かき・切紙

△計画　画ける画けないによらず数多く画かせる。

大きい紙に大胆にかかせる。

三歳児でも、たとえ出来なくも、クレヨン、墨、えのぐ、指画とすべて経験させる。

全然かけぬ人も特に教えたりせず、その子供が自然にかける時期をまつ。

種々の種類の絵がかけるようにする。

人のまねをしないで自分でどんどんかけるようにしたい。

切紙は、此方から題材を与える事はしないで好きなものを常に切らせる。

切紙もお画かきも一ケ月に一回画いたのを集録し、その経過をみる。

ぬりえは全然させない。

△実行　全然クレヨンを持つた事のない人は一人もいなかつた。

入園までに家庭でお画かきを特に好んでしていたものが男子四名。女子四名。唯画いた事のあるもの男子二名。女子一名。画いた事はあるがあまり興味のなかつたもの男子二名。女子一名。ぬりえばかりしていたもの女子一名。（以上入園前の調査）

入園後始めて画いた結果。一見して何か理解出来るもの男子二名。女子三名。その中女子の一名は家庭ではとてもよく画くが幼稚園では画けぬものがあつた。わからぬが画くだけは画くもの男子六名女子四名。

五月に入つてからえのぐを使つてかき始める。墨でかくのも同時にはじめる。えのぐは墨で画いてからでなく、いきなりえのぐで画かせた。紙は四つ切りのものを使用。

計画のように毎月集録しておいたが、九月に入つて一段と題材も豊富になり、筆蹟も大胆にしつかりとして来た。十一月に入り錯画の者がなくなつた。即ち下手ながら自分の意志が表現出来るようになつた。

一年後の現在画に興味を持ち一日一回は自由画帳を出して来て画くようになつた。題材も個々別々の絵でなく、関連された一幅の絵を画く事が出来るようになつた。即ち、主題がありそれに対する背景となるもの、景色を画くことが出来るようになつた。その作品には優劣はあるが下手ながら、前述の観念を皆が持つようになつた事はよろこんでいる。

紙は八つ切り大を始めとして四つ切りハトロン紙大を二枚つゞけて黒板一杯にはりつけてかゝせたり、又葉書大の小さいものにもかかせた。形は画洋紙の型のみでなく、円形、扇型、短冊型と種々経験させた。幼児達は円形は円形のように、扇型は扇型のようにそれにあつたといいましようか。普通の画洋紙とちがつた感じのものと画いた事は面白いと思つた。

切紙をはじめ、切つて張るとゆういわ

ゆる切紙を自由にさせていたが、何度してもわけのわからぬものをつくる。その中、家庭で教えていただいたのか、五つ七つ等に折つて模様を切る事を覚えてそれを貼出した。これは勿論よさせて他の事に転換させたが、切紙に対する興味は殆んどない。それで二学期の終りだつたか鋏をつかわず、ちぎり紙という、手でちぎつてやるのをさせた。と、実に切紙で何も出来ぬものも、おもしろい、動的なものを作り上げた。幼児達も勿論楽しそうにやり、切紙より興味はあるらしい。

現在では、その人の好きな方をさせている。

△反省　お画かきの際、絵具を多く使い過ぎた為か、クレヨン画では大きくかく事はよろこばず、又、あまりのびのびとかけない。クレヨン画は大きさに限度があるのではないかと感じた。

クレヨンではあまり画かぬ子供も絵具では大いによろこんで画く。

クレヨンの色も八色でなく他の色も要求するようになつた。

△附記　ぬりえをしない変りに、紙を織紙のように碁盤に区切りそれを模様のようにぬらせた。碁盤は勿論、この年齢には八つ切に六個の大きいもので、色の調和というものを目的にした。比較的女子の方が調和に対する観念がある。全然碁盤の線を無視したものは唯一人男子があつた。

指画をしてみた。非常によろこんだ。性格によりその表現が違い、おとなしいもの、用心深いもの等は線は細いので不鮮明、性格が強く、明るいむしろ無てつぽうのものは線が強いので却つてみた所は、はつきりして面白いものが出来た。

○自由遊び

これは幼児の全生活である事は勿論なので、又三歳児には、仕事等よりもこちらを大いに考えてあげねばならぬわけで計画を立てぬわけではないが、一刻一刻を適当に誘導、指導して前述の事に発展させる事を考え、少しでも幼児の生活を豊富にするように考えてきました。

家庭より始めて社会生活へとびこみ、お友達と遊ぶ事は彼等にとつて大なる問題でもあり努力でもありました。

入園当初全然友達とも、先生とも遊ばなかつたもの、男子二名、女子一名。これは大体一学期間この状態を続けていましたが二学期になり急に友達とゆう意識も出来皆と遊ぶようになりました。次のその変遷の状態は、

四月―五月　引つぱつてもらつて遊ぶ

六月―七月　自分一人が自分の好きな事をして遊び始めた。その中二三の友達も出来た。

九月―十月　全体で遊べるようになつた。

女子と男子とが別れて遊ぶようになつて来た。遊びの種類も違つている。

十一月―三月現在　グループが出来たその間は時々、争う事もある。先生なし

で実によく遊ぶ。自分達だけで遊び（例えば鬼ごつこ等）をはじめるようになつて来た。

○遊びの種類

(1)絵本、床上積木すべり台砂場遊び。
(2)ぶらんこ、中大積木、すべり台、砂場遊び。
(3)ままごと、汽車ごつこ、ぶらんこ、砂場でトンネルとか山作り。
(4)鬼ごつこ、かごめ、汽車ごつこ。
(5)汽車ごつこ、汽船ごつこをままごとに連関。
(6)ままごとを発展させて売やごつこを自分達ではじめて、ままごとを連関させて遊ぶ。
(7)男の子は積木で電車、船等をつくり電話線等も縄でひいて遊ぶ。

以上(1)、(2)の順に遊びが転回していたわけで、現在は友達同志よく遊べるようになり、自分で遊びをさがして始めるようになり、仲間はずれでいつも遊べぬ人はいなくなりました。（つゞく）

（四二頁より）

保管することや活用方法を計画し実践すること。

七、関係諸機関との連絡

園長は教育行政の一端をになう者であるから、常に他の機関と連絡協調して、教員が安んじて新しい教育方法等を知りうるように努力すべきである。なおその園の現状を関係方面に正しく伝え、お互いに協力して幼稚園教育の振興に助力すべきである。

八、父母や地域社会への協力

園長は幼児教育に対する父母のよき相談相手となり、特に母の会やP・T・A等とは密接に連絡し、あるいはすゝんで地域社会の教育のためのしごとを援助していく必要がある。

九、突発事項の処理

非常災変等にあたつては、明断をもつて、人的物的ともにその災害から難をまぬがれるように最善の努力を拂わなければならない。

以上いろいろ述べてきたが、要するに管理は教育目的のそれではないが、教育計画に欠くことのできない要件であり、しかも広範多岐に亘つているものであるから、今後じゆうぶん研究して、各園長がよき管理者となられるよう切に望む次第である。

講話

幼児の健康保育（十二）

お茶の水女子大学助教授
愛育研究所員　平井信義

十一　母の會・母の講座

幼稚園でも保育所でも、毎月一回は必ず母の会を開いていると思います。子供の保育或いわ教育が、幼稚園、保育所のみで出来上るものでないことは、しばしばお話しして来たところです。成果は、家庭との連絡がいかによく取れているか、に掛つているといつてもよいでしょう。幼稚園・保育所でのよい生活が家庭内でも廻転している様に、その教育が家庭にしみ込んでいくことが大切です。幼稚園・保育所でどんなに理想的な保育が行われていても、家庭の生活が逆行するものであつては、却つて子供の性格に二重性を与えることにもなるでしょう。生活の意味に矛盾を感ずることでもありましょう。

こう考えて来ると、母の会の意味も自然うなづけることゝ思います。僅かに一と月一回の母の会といつても一〇〇％に利用したいものです。健康教育の立場からいつても正にその通りで、日々に教育の効果が表れている子供の家庭ではどんな努力が払われているか、少しも効果の挙らない子供の家庭では子供をどう扱つているか、親しく母親と話合うことをしてみましょう。特に効果の挙らない子供については、母親と共にいろいろ工夫すべき事柄を考え合つてみたいと思います。これが又非常によい健康教育となります。世の母親たちはその生活が兎角マンネリズムに陥入つていて、子供の生活に工夫をすることを忘れているものです。先生方の叡智がその蒙を啓いて、その結果子供たちが、昨日よりよい生活が出来ることになれば、こんなに嬉しいことはありません。

この様に親しく母親と話をしながら教育を行うことの他に、系統立つた話をきかせることが行われゝば、更に有効と思います。「夏の病気の予防」「冬の病気」といつた様な題で私共医者が話をさせられることがありますが、こうした病気の話ばかりでなく、子供の見方について話をしてもらうことが大切であります。

そこで毎月一回約一時間内外の講義をきくとして、次のプランを立てゝみましたから御批判下さい。

一、入園時　子供のかゝる急性伝染病について。
二、五月　子供の発育と生理。
三、六月　社会病（結核と寄生虫）の話。
四、七月　夏の子供の過させ方。
五、九月　子供の栄養について。
六、十月　子供の新しい育て方。
七、十一月　病気の看護はどうするか。
八、十二月　冬の病気と予防。
九、一月　子供の体質について。
十、二月　こゝろの衛生。
十一、三月　小学校に上る注意。

以上が大体のプランでありますが、この他に母親にきかせておきたいことは、

一、公衆衛生というもの。
二、いろいろな子供（天才児、精神薄弱児、身体不自由児）について

などがあります。

之らについて講話の要点をお話ししながら、この講話の計画である。第二部・第三部を取まとめて述べてみたいと思います。

子供のかゝる急性傳染病について。

既に視診のところでくどくお話ししたことで、病気の早期発見については充分おわかりと思いますが、この他に、潜伏期・伝染方法・予防法・病原菌の話・治療法の話などが項目となりますが、要は、どんな症状があるときには幼稚園、保育所へ出さない様にすべきか、もし伝染病がその子供又は家庭内に出たときにはどうしたらよいか。――もし病気の子供がまぎれ入つているとどんな迷惑が及ぶか、ということが中心になると思います。はしかについて言えば、初期のカタル症状・十一日の潜伏期、接触伝染（接触すれば一〇〇％近く発病するが間接にはうつらない）予防は人血清・病原菌はヴイールス・治療法には特別なものがない。合併症としては肺炎・中耳炎など……百日咳についていえば、潜伏期は三日～一四日、伝染方法は咳など飛沫、伝染期間は咳の出はじめから最盛期をすぎて二、三週間、予防法はワクチン注射、病病原菌は百日咳菌、治療法はストレプトマイシンとかオーレマイシン或いわクロ、マイセチンなど抗生物質の投与……といつた風に、一連の表にでも刷つて渡しておいて、話をきけば非常に有益でありましよう。

この知識を充分に母親に持つてもらうということは、我々がいつも懸念している様な、伝染病持込みの危険を防ぐよい方法なのであります。

子供の發育と生理。

子供が大人とちがう所以は、第一に発育ということにあるのですから、もし発育のない子供があれば一大事、又、子供の生理も大人とは非常にちがうのですから、大人のからだの

積りで子供を取扱つてはならないことを、よく理解してもらうことが大切です。

体重・身重・胸囲など、標準にくらべて自分の子供がどの程度に差があるかを知つておき、差の原因について考えることも意味深いことです。

之らは子供の心理を理解するのと同様に、子供を理解する基礎となるものであることをよく承知しておいて頂きたいと思います。

社會病の話

社会病とは、社会の中にじわじわと浸潤していつて、その社会を滅ぼす病気であります。之には三つ、即ち結核・寄生虫病・性病（特にばい毒）がありますが、子供では前二者が問題となります。

結核という病気は、日本国民にとつては最も重要な病気ですから、子供と断らなくても充分に知識を持つておくことが大切です。近頃は乳幼児の結核がどんどん増して来ていますから、更に関心を深める必要があります。

結核が全く遺伝ではないこと。必ず結核菌の伝染があること、従つてどんなによい体格であり日頃丈夫を誇つていてもかゝるというと。子供は小さい程病気が重くなること、そして結核菌を出している人（開放性結核患者）はどこにもいること、而もそれを本人が知らないでいることも屢々あること、――殊に子供が老人（祖父母）から結核菌をもらうことが多いこと、などは既に常識となつていなければなりません。

結核の診断にはツベルクリン反応とレントゲン検査が大切で、之がなしには初期結核の診断は絶対につかないこと。微熱・汗・背中痛などは結核の症状としては当てにならないことなども、早く国民の常識にしたいものであります。

ツベルクリン反応が陰性であれば、必ずB・C・Gの予防注射をしておくこと。もし最近にツベルクリン反応が自然に陽性になつた（自然陽転）というならば、警戒警報!! 結核菌が体の中に入つて既に二ヶ月以上を経ている証拠ですから、いつ発病するか知れません。その為に動的な検査が大切になつて来るわけであります。約二ヶ年間は一～三ヶ月おきに、健康相談をうけて、レントゲン・血沈などの検査をうけることが大切です。

発病してからのことは、こゝでは申しません。たゞ昔の様にカルシウムの注射に医者通いをするという愚は敢てしないことです。注射よりも安静・空気・栄養の三原則の上に、ストレプトマイシンとかパスサチビオンなどの新剤を用いることが非常に大切になつて来ます。

一度癒り切てしまえば結核は、二度と発病することもないし、又、免疫体が出来るから感染の危険がなくなります。但し癒つたかどうかの目安がつき難いので、いろいろな問題を起すという結果になりますが、原則は以上の如くであります。

こうした点をよくのみ込ませる様に、講座が発展していけば本当に母親も喜びことでしよう。

次に寄生虫ですが、問題となるのは蛔虫と蟯虫でありましよう。その他十二指腸虫、条虫類があります。

蛔虫（症状が実に様々であること（高熱・痙攣・腹痛など）はご存じでしようが又、人間の体に入る系路が生野菜・漬物・手指・近頃は空気――ということも御存じでしよう。然し腸の中に入つた蛔虫の卵が孵化してから、一度腸を破つて血管や淋巴管に入つて、体をぐるぐる廻つて肺にいき、更に食道→胃→腸と下つていつてそこで一人前になることはあまり御存じの方がない様です。之を体内旅行といい、四〇～六〇日もかゝります。

体内旅行の途中でいろいろな胖管に迷い込んで、いろいろないたずら、いたずらなのみか生命を奪う様な出来ごとを起すことがあります。

検便をうけて、その上で駆虫薬をのむことが原則、――これは毎月薬をのませて安心しているお母さんへのいましめです。

蟯虫は糸くずのような小さな虫で、仲々退治しにくい。この虫がいると神経質になつたり、肛門のまわりがただれたりします。

この虫は体内旅行をしないこと。産卵は肛門のところに這い出して来てそこに行うこと、かゆいので子供はそこをかく、かいた指先に卵がつく。ついた手で食べ物にさわる、又口から卵が入る――という様に、自家感染をしますために、仲々退治出来ません。薬をつかつたり、浣腸したり水銀軟膏を肛囲に塗つたり、ずいぶん退治も面倒であります。

社会病のもう一つのものは性病、この中で女児に時折みられる淋毒性尿道炎は、風呂屋などで感染することのあるのを注意しておきましよう。

夏の子供の過させ方。

この講座の中心になる話題は、赤痢・疫痢の話と正しい食生活に関するものとなりましよう。疫痢とは赤痢菌が子供に感染して激烈な型を呈したものと考えられ、「はやて」といわれて昔から、半日乃至一日の極く短い経過で子供の生命を奪つてしまう、恐ろしい病気です。六月から次第に死亡数が増して、八月が最高となります。三、四、五歳の子供に最も多いのであります。

夏、子供が戸外から帰つて来て、ごろごろしながらポンポンが痛いという。熱をはかつてみたら四〇度近くもある。というときは何よりも先づ「疫痢」を考えることが肝心です。取り敢えずズルファミン系の薬をのませ、ヒマシ油・浣腸は段取りでありましよう。医者に連絡するのも早いこと、早く医療が始まる程、生命の助かる率がよいのです。

赤痢菌が人体に侵入する方法は、口であります。飲食物であります。その飲食物にばい菌が附着するのは第一に「手指」次いで蠅が仲介者となります。赤痢・疫痢の流行は患者又は保菌者の糞便（菌がうようよいる）の始末が悪く、ばい菌のついた手で飲食物に触れるとか、きたない手で食物を食べる場合に最も多く起ります。

従つて手指をよく洗うことが何よりの予防であることを徹底させましよう。之は急にしつけても上手にいくものではありません。普段から習慣になつていて、指先の細かい点までも洗いおとすことが出来、手洗いをすませてから食卓について食べ物を取ることをさせていれば、この病気の難から子供を守ることが出来ましよう。

ところが実際はどうでしょう。三度の食事は食卓でとるとしても、時間にかまわないだらしない間食いの与え方、きたない手で、飴だのガムなどをいじり廻した挙句食べるという様な困つた仕末、――これではお腹をこわすな、といつても無理なこと、現に下痢・腸炎で死んでいく子供の率はアメリカの数十倍であります。

母親たちに、食前の手洗いがいかに大切であるかを知らせること。子供だましとしての間食いでなく、栄養補助のおやつとして、内容の整つたものを、正しい時間に食卓につけて与えることを、何とかして実行させたいものであります。

こんな話が中心となつて来ることでしよう。

子供の栄養について。

秋は子供たちの体重が最もふえるのは秋であります。この時に栄養の話は、お母さん方の心を打つことでありましよう。調理の仕方、お弁当のこしらえ方の話も大切でしようが、栄養についての基礎知識、即ち何才の子はどの位のカロリーを与えるべきか、蛋白質、脂肪、含水炭素の配分はどうしたらよいか、ビタミン、無機質についてはどうか。而も之らの条件を満たすにはどんな食品をどれ位与えたらよいか。即ち食品分析表の利用法などについても話をきかせたいものです。

こうした話によつて、銀飯を尊んだり、ショーガだけの弁当であつたり、する様な弊がなくなり、子供たちの体位・体力が増してくれることが望ましいことゝ思います。

因みに栄養素の必要量と五才見一日の食餌量を書いておきます。

	カロリー	蛋白質	無機質		ビタミン			
			カルシウム	鉄	A	B	C	D
2才	男 1280	45g	1.0g	7mg	2000単位	0.5mg	40mg	300単位
	女 1180	40g						
3才	男 1420	50g						
	女 1320	45g						
4才	男 1500	50g	1.0g	8mg	2000	0.5mg	40mg	300量位
	女 1400	50g						
5才	男 1560	55g						
	女 1460	50g						
6才	男 1690	60g						
	女 1590	55g						

之で大体の見当はつくことゝ思います。之らを衛生的に取扱い、消化し易い形に、おいしくたべ易くする様に指導を行いたいと思います。

	量	カロリー	蛋白質	カルシウム	鉄	A	B	C
ごはん二子茶わ	6杯	700	14	50	3	0	0.3	0
漬物	1皿	30	2	4	8	0	0.03	0
野菜	3皿	80	5	40	7	2900	0.15	100
みそ汁	1杯	70	6	30	7	5	0.1	0
煮干鰯	4匹	30	7	460	3	0	0.02	0
牛乳	1合	100	5	240	2	300	0.1	3
果物	1皿	40	1	10	5	350	0.05	20
バター又は油	2匙	80	0	2	—	240	0	0
菓子・いも	1皿	290	3	24	10	200	0.2	30
		1420	43	860	45	3545	0.93	153

會から

○本誌はフレーベル百年を記念して、第五十卷第六号を、フレーベル百年祭記念特集号としましたが、再び、本号を以て、その第二特集号として刊行します。六月二十三日の記念講演会の講演全部に、二十四日のNHKの『幼稚園の父フレーベル』のシナリオを添えました。第一特集号と併せて堂々たるフレーベル百年記念文献として、永く保存せられるものと思います。

○八月仙台市に開催せられた、全國保育連合会の総会及び大会は、開催地諸方面の行き届いた準備計画と、連合会委員諸君の努力とによつて、大盛況でありました。連合会は、新名称「日本保育連合会」として、愈々その使命の実現を期待せられることを、本誌も亦心からお祝いします。

○新秋と共に、誌友諸君の御健康は、益々御充実のこと、思います。幼児の保育の全面に亘つて、一層のお力が盛り上ることを信じます。

○盛り上るといえば、幼児らの元気の何んとすばらしいことでしょう。すべてがみのりの秋でないものはない中にも、幼児の体力と心力のみのりこそ、私達の最も喜ばしいみのりです。彼等の溢れる力と共に生きて、私達の保育も亦みのりの秋です。

『幼児の教育』編集

編集主任　倉橋惣三
協力委員　牛島義友
及川ふみ
斎藤文雄
多田鉄雄
波多野完治
山下俊郎
（五十音順）
編集委員　西山浪太郎

日本幼稚園協會

保育應答研究會御案内

○九月十五日(土)午后一時半〇十月二十日(土)　〇十一月十七日(土)
○十二月十五日(土)
○会場　フレーベル館講堂
○講師　倉橋惣三先生
みなさまのお持ちよりになる保育の実際問題につき、倉橋先生を中心として出席者一同で互に研究しあう新しい企画です。
——来会随意、会費不要——

株式会社　フレーベル館内
保育応答研究会係

幼児の教育　第五〇卷　第十号　定価　金五拾円

昭和二十六年十月十五日印刷
昭和二十六年十月二十日発行

東京都中野区千光前町一〇
編集兼発行者　倉橋惣三

東京都板橋区志村町五番地
印刷所　凸版印刷株式会社

東京都文京区大塚町三十五
お茶の水女子大学附属幼稚園内
發行所　日本幼稚園協會

東京都千代田区神田神保町二ノ四
發賣所　株式会社　フレーベル館
電話九段(33)三九七一・三九七一・三〇一〇・八〇二一番
振替　東京一九六四〇番

○本誌御購読について注文申込その他は凡べて発売所フレーベル館宛に願います

新發賣

お茶の水女子大 戸倉ハル
東京教大附小 小林つや江 共著

わらべうたあそび

古来のわらべうたの粹を集めて分類し、そのうたい方とあそび方を詳説したもの。

A5判 四十六曲收錄 色刷美本 定価二二〇円 〒一二円

お茶の水女子大戸倉ハル・東京教大小林つや江共著

うたとあそび

著者多年の経験と蘊蓄を傾倒し、幼稚園及小学校低学年用の教材の粹八十曲をあつめ、これを春・夏・秋・冬の四に分類配当し夫々の曲についての解説とこれに独創的なふりつけを詳説したもので絶好の保育資料として各地の講習会等に於て讃辭を頂いています。

表紙七色刷・扉等三色刷・美麗製本

四六倍判一八四頁 定価三二〇円 書留送料六五円

東京教育大学教官 中島海著

遊戯としてのリレーレース

B6判二四二頁 定価二〇〇円 送料三五円

●多年の蘊蓄を傾倒してものした、遊戯に関する理論及び実際指導の権威書。運動会参考資料として好適。

東京教育大学教官 中島海著

鬼遊びとかけっこ

B6判三三七頁 定価二五〇円 送料三五円

●遊戯研究及実地指導に不可欠の好著。

東京都文京区大塚仲町二 株式会社 不昧堂書店 電話大塚二七〇三 振替東京六八七三九番

倉橋惣三著

育ての心

新増版！ B6判 定価 三九二頁 三〇〇円

すでに二十二版を重ねた旧著の再刊。東京女高師附属幼稚園の主事として永く児童教育に従事して来た著者の『時を異にし、所を別にして、或は想い或は語り、或は答え』そして教えている随筆集である。『自ら育つものを育たせようとする心。それが育ての心である』と『育つものへの久遠の信仰』に帰依した著者は語っているが、このような自己の天職に信じきった人の淡々とした一面がうかがわれると共に、滋味に富んだ情熱も感じられる書である。

（図書新聞評）

東京都文京区元町一の一五 乾元社 振替東京四〇一八番

11月号予告

観察 **キンダーブック** 繪本

KINDER-BOOK

第6集 〔くまのはなし〕 第8編

☆自己創造にたえまない
幼児のために是非与えたい☆

A4判・12頁・月一回発行
はさみ頁・解説付
定価 40円・送料 6円

『くまのはなし』

獅子も虎もいない我国では、熊こそ日本の猛獣でしょう。その力の強いことも、ときどき伝えられる乱暴な振る舞いも、怖しい話が多くあります。しかしまた、賢いところ、かわいゝところ、おどけたところもあつてその話が子供の耳に親しまれています。動物園やサーカスなどでも、子供をよろこばす愛きょう者ですが、その生活の自然を北海道の山奥に訪ねてみたのが、此の巻です。

熊の研究の権威者である動物学の先生や、熊を飼育しておられた北海道の人々から、沢山の「熊の科学」を学ぶと共に、強いと共にかわいらしさをもつ「熊の心理」をも味わいました。そして、この猛獣の観察と共に、子供らしい親しみを持ちたいと思つたのが、画伯を煩わした各頁の画です。

發行所 東京都千代田区神田神保町二丁目四番地 株式会社 フレーベル館 振替口座東京一九六四〇番